

日本気象学会 2007年度春季大会

会期：2007年5月13日（日）～16日（水）

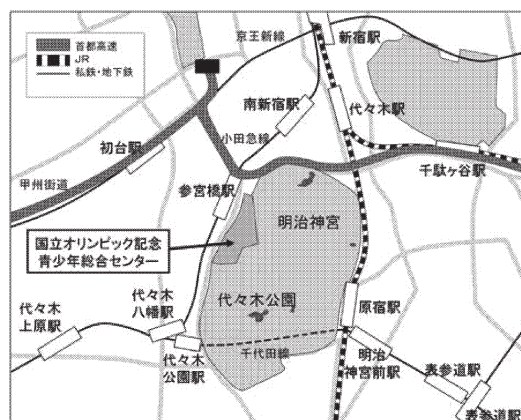
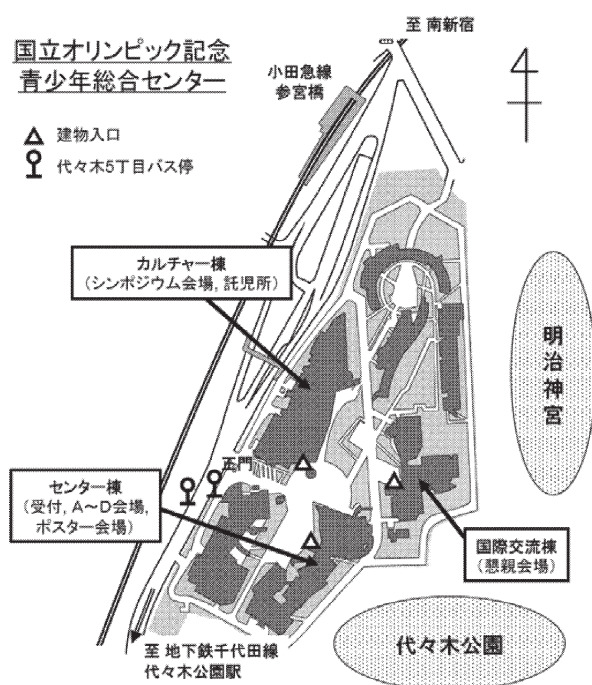
会場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区代々木神園町3-1）

大会実行委員会担当機関：東京大学気候システム研究センター

大会委員長：中島映至（東京大学気候システム研究センター）

当日の会場への連絡先：大会実行委員会事務局（会議室405）
 TEL 090-6506-7784（直通）（学会開催期間のみ有効）
 ※大会参加者への伝言は、受付付近の掲示板上に掲示します。
 取り次ぎはいたしませんのでご承知おき願います。

会場案内図



[交通手段]

○小田急線：

「参宮橋」駅下車 徒歩7分

○地下鉄千代田線：

「代々木公園」駅下車 徒歩10分

○京王バス：

1. 新宿駅西口16番より「代々木5丁目」下車
2. 渋谷駅西口14番より「代々木5丁目」下車

大会行事予定

A会場 : セミナーホール417 (センター棟 4F) B会場 : 会議室309 (センター棟 3F) C会場 : 会議室310 (センター棟 3F) D会場 : 会議室311 (センター棟 3F)	125周年記念式典・総会・記念講演・シンポジウム : 大ホール (カルチャー棟)
ポスター会場 : 会議室401,402 (センター棟 4F)	企業展示会場 : 会議室401,402 (センター棟 4F) 受付 : 会議室416 (センター棟 4F) 大会事務局 : 会議室405 (センター棟 4F) 懇親会 : レセプションルーム (国際交流棟)

		A会場	B会場	C会場	D会場
5月 13日 (日)	10:00～ 11:30	相互作用 (6, A101～A106)	専門分科会 (5, B101～B105) 「可搬型気象レーダー の現状と将来展望」I	エアロゾル (5, C101～C105)	専門分科会 (4, D101～D104) 「チベット高原気象学 の進展」I
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (46, P101～P146)			
	13:30～ 17:00	公開気象講演会	専門分科会 (9, B151～B159) 「可搬型気象レーダー の現状と将来展望」II	専門分科会 (9, C151～C159) 「大気リモートセンシ ングデータ解析技術 における工夫」	専門分科会 (12, D151～D162) 「チベット高原気象学 の進展」II
5月 14日 (月)	09:30～ 11:30	気象予報I (8, A201～A208)	竜巻 (9, B201～B209)	微量気体 (9, C201～C209)	大気力学 (8, D201～D208)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (45, P201～P245)			
	13:30～ 14:30	日本気象学会125周年記念式典			
	14:30～ 16:00	総会			
	16:00～ 18:00	学会賞・藤原賞受賞記念講演			
	18:00～ 20:00	懇親会			
5月 15日 (火)	09:30～ 11:30	気象予報II (8, A301～A308)	降水システムI (9, B301～B309)	大気境界層I (8, C301～C308)	中層大気 (7, D301～D307)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (45, P301～P345)			
	13:30～ 17:30	日本気象学会125周年記念国際シンポジウム「次世代の大気科学に期待すること」			
5月 16日 (水)	09:30～ 11:30	気候システムI (8, A401～A408)	降水システムII (8, B401～B408)	大気境界層II (7, C401～C407)	台風 (8, D401～D408)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (45, P401～P445)			
	13:30～ 17:00	気候システムII (15, A451～A465)	雲物理 (14, B451～B464)	気象教育 (2, C451～C452) 観測手法 (13, C451～C463)	熱帯大気 (15, D451～D465)

発表件数 : 387件 (専門分科会39, 口頭発表167, ポスター181)

当大会予稿集に掲載された研究発表の文章・図表を複製あるいは翻訳して利用する場合には、日本気象学会の文書による利用許諾を得た上で出所明示して利用しなければなりません。ただし著作者自身による利用の場合は、利用許諾の申請は不要です。

本プログラムの記載内容に関する問い合わせは、〒305-0052茨城県つくば市長峰1-1気象研究所予報研究部内 講演企画委員会 (e-mail:kouenkikaku2007s@mri-jma.go.jp) まで。

講演の方法

一般口頭発表・専門分科会

- ・ 一般口頭発表の講演1件あたりの持ち時間は13分（講演10分・質疑3分）です。
- ・ 専門分科会の各講演の持ち時間は分科会毎に決められています。詳細は各分科会のプログラムをご覧ください。
- ・ 講演にはPCプロジェクターとOHPが使用できます。
- ・ 止むを得ない事情で使用機器が講演申込時に予め届け出ていた機器と異なる場合は、セッション開始前までに座長と会場係にその旨を申し出て下さい。
- ・ PCプロジェクターを使用する際は予め以下の点をご了承ください。
 - ✓ パソコンは各自で準備して下さい。会場にはプロジェクターおよび接続ケーブルのみを準備します。
 - ✓ セッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。また接続が不安な場合は、セッション開始前に会場係に申し出て下さい。
 - ✓ 突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で発表順の繰り下げなどの対応することが

あります。また、場合によってはOHPによる発表に切り替えさせて頂くこともあります。携帯用メディアによるバックアップファイルの準備やOHPシートの準備など、トラブルへの備えは講演者自身で行って頂くようにお願いします。

ポスター発表

- ・ 講演者はポスターに表題と著者名を明記して下さい。
- ・ ポスター発表の一人当たり使用可能面積は、縦150 cm×横180 cmとなっています。
- ・ ポスターの掲示にあたって紙、ピンが使用できますが、糊、テープ等は使用できません。必要な紙、ピンは各自で用意して下さい。
- ・ ポスターの掲示可能時間は発表日の09:30-16:30となっています。会場の都合上時間厳守をお願いします。
- ・ ポスター会場での機器の使用は講演申し込み時に申し出ていたもの以外は原則として認められません。

日本気象学会125周年記念国際シンポジウム 「次世代の大気科学に期待すること」

Toward the Next Generation of Atmospheric Sciences

日時：大会第3日（5月15日）13:30～17:30

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター 大ホール（カルチャー棟）

司会：中島映至（東京大学気候システム研究センター）

趣旨：

新世紀、気象学会125周年、計算機・衛星テクノロジーの大飛躍に鑑み、次世代の大気科学に期待することを、モデリング、観測、解析研究のベテラン、若手に自由に語っていただき、会員諸氏とともに今後の気象研究の展開に思いを馳せる。

基調講演：

Dr. Guy Brasseur (National Center for Atmospheric Research, USA) Modeling Earth System Interactions

Dr. Brian Golding (Met Office, UK)

Future Forecasting

上田 博 (名古屋大学地球水循環研究センター)

次世代降水系観測が拓く新しい気象学
Next Generation Observations on Precipitation System

増永浩彦 (名古屋大学地球水循環研究センター)

次世代地球観測衛星を用いた気象学研究の展望
Prospective Meteorological Studies Using Next-Generation Earth-Observing Satellites

植田宏昭 (筑波大学大学院生命環境科学研究科)

気候研究におけるデータ解析の意義と今後の課題
A Climatological Perspective on Achievements and Problems of Data Analysis

総合討論

日本気象学会125周年記念式典

日時：大会第2日（5月14日）13:30～14:30

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター 大ホール（カルチャー棟）

式次第

- | | |
|---------|----------|
| 1. 開式の辞 | 4. 祝電披露 |
| 2. 式辞 | 5. 感謝状贈呈 |
| 3. 来賓祝辞 | 6. 閉式の辞 |

総会

日時：大会第2日（5月14日）14:30～16:00

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター 大ホール（カルチャー棟）

議事次第

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1. 開会 | 8. 2006年度監査報告 |
| 2. 議長選出 | 9. 理事の辞任に伴う後任の選任 |
| 3. 理事長挨拶 | 10. 2007年度事業計画案 |
| 4. 2007年度学会賞授与 | 11. 2007年度収支予算案 |
| 5. 2007年度藤原賞授与 | 12. その他 |
| 6. 2006年度事業報告 | 13. 議長解任 |
| 7. 2006年度収支決算報告 | 14. 閉会 |

専門分科会の概要紹介

2007年度春季大会では下記の通り,3件の専門分科会が開かれます。

可搬型気象レーダーの現状と将来展望—小規模じょう乱から気候変動の観測まで—

日時：大会第1日（5月13日）10:00～11:30, 13:30～17:00

場所：B会場

趣旨：毎年、様々な観測機器を駆使した大規模な観測プロジェクトが国内外で活発に行なわれています。その観測ツールの中核を担ってきたのが、降水現象を観測する可搬型気象レーダーです。可搬型気象レーダーの対象は、竜巻やダウンバーストのような小規模じょう乱から、積乱雲、台風、梅雨前線、海上の降雪雲など、多岐にわたります。さらに最近、熱帯の対流雲を気候変動の励振源として着目し、その長期変動を観測する試みも始まっています。そこで、可搬型気象レーダーに関する最新の観測事例やその成果について情報交換を行うことを目的に、表題の専門分科会を企画しました。可搬型気象レーダーにより、何が明らかになり、どんな新事実が発見されてきたのか。これから今後どのような役割が期待されるのかをみんなで議論します。また、可搬型気象レーダーは様々なノウハウを必要とする大掛かりな観測装置です。レーダーの開発、改造、運用、何がポイントで何が重要なのか、検証したいと思います。

コンピーナー：楠 研一（気象研究所）、上田 博（名古屋大学地球水循環研究センター）、牛山朋来（海洋研究開発機構地球環境観測研究センター）、小林文明（防衛大学校）、真木雅之（防災科学技術研究所）

大気リモートセンシングデータ解析技術における工夫

日時：大会第1日（5月13日）13:30～17:00

場所：C会場

趣旨：近年、衛星搭載センサーや地上リモートセンシング技術の向上により、これまで検出が難しかった新たな大気物理量の抽出が可能になりつつある。これらは単に検出器の技術的な向上のみならず、データ解析手法における様々な工夫が為し得たものである。あるものは統計的手法の最適化で対象物を選択的に抽出したり、またあるものは一つの物理量を加えることで識別が難しかった2つの物理量の分離が可能になったりと、他分野での応用の可能性も秘めるキー技術を用いている。本分科会は、このようなリモートセンシングデータの解析技術について、“なるほど”と思われる工夫を紹介しあい、基本技術や観測対象の異なる研究者間で、新たな工夫や応用に繋げるための情報交換の場としたい。

コンピーナー：今須良一、齋藤尚子（東京大学気候システム研究センター）、笠井康子（情報通信研究機構）、杉本伸夫（国立環境研究所）

チベット高原気象学の進展

日時：大会第1日（5月13日） 10:00～11:30, 13:30～17:00

場所：D会場

趣旨：チベット高原周辺気象に関し、高原上昇に伴う周辺アジアの気候形成、熱力学作用に伴うアジアモンスーン循環への影響、地表面状態に応じた大気陸面過程、複雑地形による局地循環と降水の日変化、中緯度循環場との相互作用など、様々な角度から研究が進展している。近年は地上観測網や衛星観測データも整備され、シミュレーションや再解析データとともに、このような遠隔地における多くの物理過程が明らかになりつつある。本分科会では、従来各セッションで断片的に発表されてきたこれらの研究成果を“チベット高原・ヒマラヤ山塊”をキーワードとする同一セッションで横断的に議論することにより、様々な時空間スケール・地域性を有する現象の相互作用に関する理解を深め、チベット高原の大気循環場への影響に関する総合的な理解を目指す。

コンピナー：上野健一（筑波大学大学院生命環境科学研究所）、里村雄彦（京都大学大学院理学研究所）、阿部 学（名古屋大学大学院環境学研究所）、栗田直幸（海洋研究開発機構地球環境観測研究センター）、佐藤友徳（東京大学気候システム研究センター）

公開気象講演会のお知らせ

※公開気象講演会への参加は無料・事前の申込も不要です。

日時：2007年5月13日（日）（大会第1日） 13:30～16:30

場所：大会A会場

趣旨：（社）日本気象学会が創立125周年を迎えるのを機に、一般市民の方々に、気象に関する最近の研究成果を分かりやすく解説することを目的とした、公開講演会を開催します。今回は、災害をもたらすことにより、私たちの生活に大きな影響を与える、激しい気象を取り上げ、その観測事実、発生要因、長期的変化傾向等について、中・高校生にも分かるよう、やさしく解説します。

テーマおよび講師：

1. 大雨の特徴と最近の傾向：藤部文昭（気象研究所）
2. 竜巻の謎を探る：新野 宏（東京大学海洋研究所）
3. 台風ー巨大な渦巻き：萬納寺信崇（気象庁太平洋台風センター）

問い合わせ先：古川武彦（気象コンパス）E-mail：takefuru@eos.ocn.ne.jp

研究会のお知らせ

何れも参加は無料・事前の申込も不要ですので、興味のある方はご自由にご参加下さい。

第28回メソ気象研究会

日時：2007年5月12日（土）（大会前日） 13:30～17:00

場所：気象庁講堂（東京都千代田区大手町1-3-4）

テーマ：「積乱雲の発達高度」

コンピナー：加藤輝之（気象研）

内容：集中豪雨（水平スケール数十km）は、主に発達した積乱雲群（メソ対流系）によってもたらされる。また、熱帯域の発達した大量の積乱雲による大気中層の加熱は地球規模の大循環（水平スケール数千km）に大きな影響を与える。このようにスケールが3桁も異なる現象を考える上でも、5～15km程度のスケールしか持たない積乱雲が非常に重要な働きをしているのである。しかし、積乱雲の発達高度の決定は大気状態に依存するにもかかわらず、そのことについてはあまり議論されてこなかった。そこで、今回のメソ研究会では大気状態が異なる梅雨前線帯と熱帯域での積乱雲の観測や積乱雲に関わる解析・数値シミュレーションを取り上げる。その中で、積乱雲の発達条件についての議論を深め、今後の研究方向を探りたい。また、このような議論・研究は今後の新たな湿潤対流のパラメタリゼーションの開発や温暖化された大気状態でのメソ対流系の理解に役立つことが期待されている。その観点から、

温暖化時の積乱雲の発達高度についても考察する。

プログラム：

講演（講演時間30分＋質問5分）

1. 梅雨前線帯における積乱雲の潜在的発達高度について
加藤輝之（気象研）
2. 梅雨前線帯で観測された積乱雲の発達高度について
上田 博（名大地球水循環）
3. 積乱雲内の上昇流の特徴と大気状態との関連
牛山朋来（IORGC）
4. 安定度の違いによる積乱雲の組織化や発達高度への影響
竹見哲也（京大防災研）
5. 温暖化によって積乱雲の発達高度はどう変わるのか
金田幸恵（AESTO/気象研）

総合討論

世話人：坪木和久（名大地球水循環）、加藤輝之（気象研）、小倉義光（東大海洋研）

連絡先：加藤輝之（気象研）E-mail：tkato@mri-jma.go.jp

第3回気象庁数値モデル研究会

気象庁では、気象学の分野で用いられているさまざまな数値モデルに関する情報交換の場として、平成17年度から「気

象序数値モデル研究会」を開催しています。今年度は、世界天気研究計画のもとで実施されている観測システム研究・予測可能性実験計画(THORPEX)の一環として構築されている全球マルチモデルアンサンブルデータセット(TIGGEデータセット)や、気象庁・海洋研究開発機構・千葉科学大学の共同研究の成果であるアンサンブル技術を用いた実験的解析データ(ALERAデータ)について、その概要・利用方法・利用例について取り上げる予定です。全球モデルに携わる方だけでなく、メソモデルを用いたダウンスケール実験などへの利用が期待できますので幅広い参加を期待いたします。詳しくは、数値予報研究開発プラットフォームのホームページ(<http://pfi.kishou.go.jp>)でもお知らせいたします。

日時：2007年5月12日(土) (大会前日) 17:30～19:30

場所：気象庁講堂(東京都千代田区大手町1-3-4)

話題および講演者：

「顕著現象予測のためのアンサンブルデータの利用」

TIGGEの概要(竹内義明 気象庁数値予報)

TIGGEデータセットの取得方法

(横井信太郎 気象庁数値予報)

TIGGEデータセットの利用例

(松枝未遠 筑波大院生命環境)

アンサンブル手法を用いたデータ同化

(三好建正 気象庁数値予報)

ALERAデータの公開と予測可能性研究への活用例

(榎本 剛 地球シミュレータ)

注意事項(第28回メソ気象研究会および第3回気象庁数値モデル研究会共通)：自家用車での来庁はご遠慮下さい。当日は閉庁日ですので、正面玄関(KKR東京側)のみ開いています。研究会の受付で名札を受け取り、着用してください。

問い合わせ先：気象庁総務部企画課 横山 博

(気象庁モデル技術開発推進本部事務局)

TEL：03-3212-8341(内線2227)

E-mail：hiroshi.yokoyama@mct.kishou.go.jp

惑星大気研究連絡会

日時：2007年5月12日(土) (大会前日) 13:30～18:30

場所：大会B会場

テーマ：火星研究の現状

内容：惑星大気研究会連絡会では、気象学会前日の午後、「火星研究の現状」と題して、火星大気科学に関する分野横断的勉強会を企画しています。最近の研究動向から最新の研究成果まで、講演者には十分時間をかけて説明して頂き(1件1時間程度)、討論したいと思いますので、専門家は勿論、興味をお持ちの幅広い分野の方々のご参加をお待ちしております。

プログラム(予定)：

1. 「火星大気中のダスト循環」

高橋芳幸(神戸大院理)

2. 「Hellas盆地付近のダストの拡大、局在過程の考察」

小郷原一智(京大院理)

3. 「古火星大気の温暖化問題」

光田千紘(北大学院理)

4. 「火星地形からみる火星大気活動」

栗田 敬(東大地震研)

世話人：松田佳久(学芸大)、阿部 豊(東大)、石渡正樹(北大)、今村 剛(JAXA)、岩上直幹(東大)、小高正嗣(北大)、高木征弘(東大)、中島健介(九大)、

はしもとじょーじ(神戸大)、林 祥介(神戸大)

URL：<http://wtk.gfd-dennou.org/>

連絡先：高木征弘(東大理)

TEL：03-5841-4285, FAX：03-5841-8791

E-mail：wtk-staff@gfd-dennou.org

極域・寒冷域研究連絡会

日時：2007年5月13日(日) (大会第1日) 17:15～2時間程度

場所：大会B会場

話題：

1. IPY(国際極年)2007-2008 について

「IPY 2007-2008 大気科学プロジェクトー日本の貢献」

山内 恭(極地研)

2. 南極観測報告

「2007年夏、昭和基地は国際空港だった」

平沢尚彦(極地研)

「南極の空を飛び回ったのだ」

原 圭一郎(福岡大)

今回の極域・寒冷域研究連絡会は、極域観測についての特集です。まず、IPY(国際極年)2007-2008 の話題を提供して頂きます。IPY は、極域での様々な過程や、それらの地球全体への影響についての最先端の科学を追求するなどの目的を持った国際的な極域の科学計画です。2007年3月1日から2009年3月1日の間、南北緯度60度から90度の範囲で計画されています。この IPY について、その歴史、今回の IPY の特色、日本の貢献について等の話題を提供して頂きます。後半では、今回の南極観測の夏隊で行われた観測について、実際に南極観測に携わった方々から、最新の成果を紹介して頂きます。

代表：山崎孝治(北大地球環境)

世話人：平沢尚彦(極地研)、中村 尚(東大院理)、浮田甚郎(千葉大CEReS)、高田久美子(FRCGC)、阿部彩子(東大気候システム)、佐藤 薫(東大院理)、本田明治(FRCGC)、齋藤冬樹(FRCGC)、猪上 淳(IORGC)、高谷康太郎(FRCGC)

URL：http://polaris.nipr.ac.jp/~pras/coolnet/cl_index

問い合わせ先：高谷康太郎(FRCGC)

TEL：045-778-5526, FAX：045-778-5707

E-mail：takaya@jamstec.go.jp

第2回統合的陸域圏研究連絡会

日時：2007年5月13日(日) (大会第1日) 18:00～20:00

場所：大会C会場

内容：「統合的陸域圏研究連絡会」においては、陸面を中心とする大気境界層から土壌内に渡る陸域圏を研究の主な対象とし、そこにおける物理的、生物的諸過程の理解に向けた、広い視野に立った研究のための情報交換、陸域圏を対象とした基礎的なメカニズムの理解と、他の圏との広域的・長期的相互作用システムの解明、直接観測、間接観測、およびモデリングの融合、空間的・時間的スケール間ギャップの問題の解決への方向性の探求、正確な現状の認識と、実質的に意味のある手法の開発に向けた努力、およびそれらのための研究協力関係の構築を目的としています。今回は5名の招待講演者による講演を中心に研究会を開催いたします。

プログラム：

1. 及川武久(筑波大)

「GAIM研究会の10年の歩み」

2. 谷 誠 (京大院農)
「半島マレーシア熱帯雨林における蒸発散特性」
 3. 井口敬雄 (京大防災研)
「グローバル数値モデルを用いた大気中二酸化炭素の収支の研究」
 4. 中田淳子 (岐阜大流域圏研究センター)
「岐阜大学COE『衛星生態学創生拠点』～中部山岳地帯における観測と陸面モデルの開発」
 5. 風岡 亮 (京大院理)
「日本付近に到達する空気塊移動の特徴について」
- 世話人：馬淵和雄 (気象研)，大谷義一 (森林総研)，青木輝夫 (気象研)，西田顕郎 (筑波大)，伊藤昭彦 (環境研)
代表連絡先：馬淵和雄 (気象研)
E-mail：knabuchi@mri-jma.go.jp

気象教育懇談会

気象学は最も身近な自然科学の一つであるとともに、自然環境にも密接に関係し、21世紀の自然科学教育において重要な位置を占めています。そこで、気象学に関わる教育やアウトリーチについての問題を考える場として、昨年からは気象教育懇談会を開くことに致しました。学校教育に限らず、研究者、気象業務担当者、高等教育関係者にお集まり頂き、情報交換ができればと考えております。本年は「気象関係画像とその教育利用」というテーマで、下記の要領で実施致します。

日時：2007年5月13日 (日) (大会第1日) 17:00～18:30

場所：大会D会場

テーマ：「気象関係画像とその教育利用」 気象現象を捉えた映像をどのようにして教育に利用するのが有効か、地上と衛星の事例から考えてみます。

話題提供者およびその概要：

- ①武田康男 (東葛飾高) 「気象現象の撮影とその教育利用について」 教育の場で気象を教える場合、気象画像の利用はとて効果的です。その画像は教育者自ら観測して撮影することができます。さまざまな雲や空、気象光学現象など、身近に題材がたくさんあります。これまでに私が小学校から高校までの授業や大人向けの講座等で

用いた、自ら撮影した画像や映像を紹介し、その観測・撮影の方法や学校現場での活用の様子を提示します。

②浅野準一 (気象大) 「リアルタイム気象衛星画像の利用法」 昨今インターネット等の発達で、気象衛星画像の入手は格段に便利になりました。しかし、日時や撮影領域を特定して入手することは難しく、例えば『気象衛星観測月報』の発行を待たなくてはなりません。一方で、欧米に目を転じてみると、地球観測衛星等の観測データがふんだんに、しかも無料で公開されています。しかし、これらのデータを取り扱うにはプログラミングについて一定のスキルが必要で、教育の現場で手軽に利用するにはやや敷居が高いと思われます。今回の懇談会では、雲画像解析プログラムセットSATAIDを使った気象衛星画像の表示や、前線等の描画・解析方法について紹介し、実際の教育の場での気象衛星画像の活用を参加者の皆さんと探っていければと考えています。

問い合わせ先：畠山正恒 (聖光学院中学高等学校)

E-mail：hatakeya@hotmail.com

オゾン研究連絡会

日時：2007年5月15日 (火) (大会第3日) セッション終了後から2時間以内

場所：大会B会場

内容：今回は、成層圏・対流圏オゾン研究の第一人者である NCARのBrasseur氏に、将来の方向性も含めたオゾン研究のレビュー的講演をして頂けることになりました。関心をお持ちの方はこの機会に是非お集まり下さい。

題目：Atmospheric Ozone, Yesterday, Today and Tomorrow (予定)

講演者：Prof. Guy Brasseur (NCAR)

世話人：笠井康子 (NICT)，川上修司，河本 望 (JAXA)，永島達也 (環境研)，庭野将徳 (FRCGC)，村田 功 (東北大院環境科学)

連絡先：村田 功 (東北大院環境科学)

TEL：022-795-5776, FAX：022-795-5775

E-mail：murata@pat.geophys.tohoku.ac.jp

保育施設幹旋について

今大会では、保育施設をご用意しております。大会ホームページ (<http://msj2007.jtbcom.co.jp/>) の保育案内をご覧の上、5月7日までにお申し込みください。不明な点や急な問い合わせの場合は、電子メールをkisho-07@ccsr.u-tokyo.ac.jpまでお送りください。

非会員による大会での継続的な講演について

最近、非会員のままで継続して大会での講演を行うケースが少なからず見受けられます。特に教員との共著で講演を行う学生や院生の方が多いようですが、一般の方もおられるようです。大会での講演は気象学会会員としての貴重な権利であり、「共著者に会員がいる場合は非会員の大会での講演を認める」という規定は、あくまでも短期滞在の外国人や他分野の研究者が気象学会において一時的に講演を行う場合の特例です。これまでもお願いしてきましたが、気象学会において継続的に講演を行いたい場合には会員になって頂くように強く望みます。

秋季大会の予告

2007年度秋季大会は、2007年10月14日 (日)～16日 (火) に北海道大学 (札幌市) で開催される予定です。

大会第1日 [5月13日] 10:00~11:30 一般口頭発表

(*印は講演者を表す)

相互作用	A 会場 座長：時長 宏樹(IORGC)	C 会場 エアロゾル 座長：田中 泰宙(気象研)
A101	*山本勝・広瀬直毅(九大応力研) 衛星データ同化 SST を用いた冬季日本海域の気象シミュレーション	C101 *中前久美・塩谷雅人(京大生存研) 北大西洋上における北半球冬季のサハラ・ダストの経年変動
A102	*山内明子・小林裕司(伊豆海洋科学研究所) 他2名 伊豆半島周辺における層別海水温の変動解析-相対分散による相境界の性質について-	C102 *宮崎雄三・近藤豊(東大先端研) 他6名 韓国済州島における水溶性有機エアロゾルの化学特性
A103	*小橋史明(東京海洋大)・谷本陽一(北大院地球環境/FRCGC) 他5名 冬季黒潮続流域で観測された大気境界層の構造と変動	C103 *青木輝夫・田中悦子(気象研) 他6名 積雪に含まれる黒色炭素・ダストとアルベドの観測
A104	*古関俊也・渡部雅浩(北大院環境科学) 黒潮続流域における中規模 SST 偏差が駆動する大気境界層内循環	C104 *五藤大輔(東大気候システム)・竹村俊彦(九大応力研) 他1名 エアロゾル活性時における競合効果の全球雲場に与える影響
A105	*田中英貴(名大院環境)・安成哲三(名大地球水循環) 他2名 夏季オーストラリアにおける雲量の長期的な増加傾向	C105 *田中泰宙・出牛真(気象研) 他 エアロゾルモデルの気象研究所地球システムモデルへの結合と火山性エアロゾルによるエアロゾル・放射結合実験
A106	*神代剛・塩谷雅人(京大生存研) 海上観測雲データとERA-40を用いた下層雲量と下部対流圏安定度の季節変動の相関解析	

大会第1日 [5月13日] 10:00~11:30, 13:30~17:00 専門分科会

(*印は講演者を表す)

B 会場

「可搬型気象レーダーの現状と将来展望—小規模じょう乱から気候変動の観測まで—」

午前(10:00~11:30)

§1 最近の観測—小規模じょう乱から気候変動まで—

10:00~10:05	趣旨説明	楠研一(気象研)	座長 : 小林 文明(防衛大)
10:05~10:20	B101	*藤吉康志(北大・低温研) 可搬型ドップラーXバンドレーダー、レーザーレーダーを用いた観測概括と今後の展開	
10:20~10:35	B102	*遊馬芳雄(琉球大理 / 北大院理) 北極域でのレーダー観測	
10:35~10:50	B103	*橋口浩之(京大生存研)・植松明久(NICT)他5名 車載型ミリ波ドップラーレーダーによる雲・霧の観測	
10:50~11:05	B104	*杉本聡一郎(電中研)他2名 福島県会津盆地における雷雨のデュアルドップラー観測	
11:05~11:20	B105	*鈴木智幸・道本光一郎(航空自衛隊)他1名 北陸の冬季雷と中間圏発光現象の観測	

午後(13:30~17:00)

§1 最近の観測—小規模じょう乱から気候変動まで—(続き)

座長 : 真木 雅之(防災科研)

13:30~13:45	B151	*楠研一(気象研) 気象研究所における可搬型ドップラー気象レーダーを用いた研究—これまでと今後—
13:45~14:00	B152	*小林文明(防大地球) 竜巻・ダウンバーストの微細構造
14:00~14:15	B153	*牛山朋来・勝俣昌己(IORGC)他2名 IORGC/JAMSTECで行われた可搬型レーダーによる気候変動の観測
14:15~14:30	B154	*渡邊明(福島大理工学群) 2次元降水量測定の精度向上のためのX-Band Radar観測

§2 新たな動き—開発・運用・データ処理技術—

座長 : 楠 研一(気象研)・牛山 朋来(IORGC)

14:30~14:45	B155	*上田博(名大地球水循環)他3名 地球水循環観測マルチパラメーターレーダー(可搬型)の機能と諸元
14:45~15:00	B156	*鷹野敏明(千葉大院自然)・河村洋平(千葉大工)他10名 95 GHz ミリ波雲レーダ FALCON の性能と将来展望
15:00~15:15	休憩	
15:15~15:30	B157	*牛尾知雄(大阪大院工)・今井克之(住友電工)他5名 気象用高分解能レーダ(広帯域レーダ)システムの開発
15:30~15:45	B158	*真木雅之・前坂剛(防災科研)他15名 局地気象擾乱のリアルタイム監視レーダネットワーク(X-NET)
15:45~16:00	B159	*加藤亘・鈴木博人(JR東日本防災研究所)他3名 日本海沿岸部におけるXバンドドップラーレーダを用いた観測

16:00~16:40 メーカーの立場から 東芝・日本無線・三菱電機

座長 : 上田 博(名大地球水循環)

16:40~17:00 総合討論

※各講演の持ち時間は15分(講演13分+質疑応答2分)

大会第1日 [5月13日] 13:30~17:00 専門分科会

(*印は講演者を表す)

C 会場

「大気リモートセンシングデータ解析技術における工夫」

座長：今須 良一(東大気候システム)

- 13:30~13:50 C151 *今須良一・齋藤尚子(東大気候システム) 他1名
熱赤外スペクトルを用いたCO₂濃度解析時における気温情報の導入方法
- 13:50~14:10 C152 *太田芳文(環境研)・今須良一(東大気候システム) 他1名
衛星からの温室効果ガス観測における誤差の評価手法
- 14:10~14:30 C153 *齋藤尚子(東大気候システム)・太田芳文(環境研) 他2名
リトリーバルチャンネルの選択によるCO₂濃度推定精度の向上

14:30~14:35 休憩

座長：笠井 康子(NICT)

- 14:35~14:55 C154 *笠井康子(NICT) 他4名
テラヘルツ波衛星リモートセンシング観測のデータ解析アルゴリズム開発
- 14:55~15:15 C155 *Philippe Baron(NICT)・Y. Kasai(JAXA) 他3名
Retrieval of JEM/SMILES line of sight pointing from non-oxygen lines
- 15:15~15:35 C156 *Jana Mendrok・Philippe Baron(NICT) 他1名
Submillimeter and Terahertz Remote Sensing of Clouds

15:35~15:40 休憩

座長：杉本 伸夫(環境研)

- 15:40~16:00 C157 *杉本伸夫(環境研)
ライダーによるエアロゾルの定量的測定について
- 16:00~16:20 C158 *西澤智明・杉本伸夫(環境研) 他7名
能動型測器と受動型測器を用いたエアロゾル導出アルゴリズムの開発
- 16:20~16:40 C159 *岡本創・佐藤可織(東北大理) 他1名
雲微物理量解析シナジーアルゴリズム

16:40~17:00 総合討論

※各講演の持ち時間は20分(講演15分+質疑応答5分)

大会第1日 [5月13日] 10:00～11:30, 13:30～17:00 専門分科会

(*印は講演者を表す)

D 会場
「チベット高原気象学の進展」

午前(10:00～11:30)

- 10:00～10:10 趣旨説明 上野健一(筑波大院生命環境) 座長：栗田 直幸(IORGC)
- 10:10～10:25 D101 *堀正岳・阿部学(名大)他3名
チベット高原が冬季から春期のアジアモンスーンの季節進行に果たす役割～AOGCM 地形除去実験を通して～
- 10:25～10:40 D102 *佐藤友徳(東大気候システム)他2名
全球雲解像モデル NICAM によるチベット高原上の対流活動の日変化
- 10:40～10:55 D103 *永野良紀(日大院地球情報)・加藤央之(電中研)他1名
チベット高気圧の北偏に関する気候学的解析
- 10:55～11:10 D104 *川島茂人(農環研)・唐艶鴻(環境研)他3名
チベット高原における気象環境の長期モニタリング
- 11:10～11:30 総合討論

午後(13:30～17:00)

- 座長：阿部 学(名大院環境)
- 13:30～13:45 D151 *小池俊雄・陽坤(東大工)他1名
チベット高原における地表面フラックスの時空間分布の算定
- 13:45～14:00 D152 *上野健一(筑波大学生命環境)・広瀬望(科学技術振興機構)
冬から春にかけてチベット高原の積雪と大気陸面過程
- 14:00～14:15 D153 *谷口健司・小池俊雄(東大院工)
春季チベット高原東部域における対流圏上層大気昇温と積雲活動
- 14:15～14:30 D154 *田中健路(熊大院自)・石川裕彦(京大防災研)他7名
チベット高原東部 BJ サイトにおける乱流フラックス観測
- 14:30～14:45 D155 *萩野谷成徳(気象研)・徐健青(FRCGC)
チベット高原上の広域熱収支解析
- 14:45～15:00 D156 *杜明遠(農環研)他9名
チベット高原における山地気象観測の意義
- 15:00～15:15 休憩
- 座長：佐藤 友徳(東大気候システム)
- 15:15～15:30 D157 *山田広幸(IORGC)
チベット高原上の雲活動に対する陸面状態の役割
- 15:30～15:45 D158 *栗田直幸(IORGC)
チベット高原での夏期降水活動における再循環過程の役割
- 15:45～16:00 D159 *杉本志織・上野健一(筑波大院生命環境)
夏季モンスーン期チベット高原の積雲対流活動に関する数値実験
- 16:00～16:15 D160 *村田文絵(高知大理)・寺尾徹(大阪学院大)他3名
チェラプンジにおける降水過程に関する研究(第3報)
- 16:15～16:30 D161 *福島あずさ(首都大都市環境)・高橋日出男(学芸大)他1名
ネパールにおけるプレモンスーン季降水量の年々変動と循環場の特徴について
- 16:30～16:45 D162 *藤波初木(名大地球水循環)
夏季チベット高原上の対流活動の日変化と季節内変動の関係
- 座長：上野 健一(筑波大院生命環境)・里村 雄彦(京大院理)
- 16:45～17:00 総合討論

※各講演の持ち時間は15分(講演13分+質疑応答2分)

大会第2日 [5月14日] 9:30~11:30 一般口頭発表

(*印は講演者を表す)

A 会場		B 会場	
気象予報 I		竜巻	
座長 : 原 旅人(気象庁数値予報)		座長 : 益子 渉(気象研)	
A201	*原旅人(気象庁数値予報) 他 11 名 気象庁の現業非静力学モデルの予報時間延長に向けた開発	B201	*益子渉(気象研) 雲解像モデルによる T0613 号に伴う竜巻の再現実験
A202	*國井勝(気象研)・本田有機(気象庁数値予報) 気象庁非静力学モデルに対する特異ベクトルの計算(第4報)	B202	*坪木和久(名大地球水循環) 台風 0613 号の外域降雨帯に発生したスーパーセルに伴う竜巻のシミュレーション
A203	*斉藤和雄(気象研) 気象庁非静力学モデルによる BGM 法のテスト(その2)	B203	*加藤輝之(気象研)・新野宏(東大海洋研) 2006年11月7日北海道佐呂間町で観測された竜巻の発生環境～雲解像モデルによるスーパーセルの再現結果から～
A204	*斉藤和雄・瀬古弘(気象研) 他 4 名 WWRP 北京 2008 予報実証/研究開発プロジェクトについて(その1 2006年夏予備実験)	B204	*吉田聡・榎本剛(地球シミュレータ) 佐呂間竜巻を伴った爆弾低気圧の予測可能性
A205	*青梨和正・永戸久喜(気象研) 非静力学解像モデルの物理量のアンサンブル予報誤差の擾乱依存性について	B205	*遊馬芳雄(琉球大理/北大院理) 北海道佐呂間町での竜巻発生時の総観場と竜巻発生成因の可能性
A206	*松枝未遠(筑波大院生命環境) 他 3 名 2005年12月15日にアメリカ西海岸に発生したプロッキングの予報について-アンサンブル予報データを用いた数値実験および感度解析-	B206	*前坂剛・清水慎吾(防災科研) 2001年8月に羽生市で竜巻をもたらした親雲の構造について
A207	*三好建正・佐藤芳昭(気象庁数値予報) 気象庁全球モデルを使った LETKF 実験	B207	*佐藤晋介・出世ゆかり(NICT) 他 2 名 ドップラー気象レーダーによる突風検出に関する諸問題
A208	*妹尾卓・木本昌秀(東大気候システム) 大気大循環モデルを用いたアンサンブル・カルマンフィルタ実験	B208	*鈴木修・山内洋(気象研) 他4名 '96~'06の空港気象ドップラーレーダーのデータを用いた竜巻等突風の親雲のメソサイクロンの解析
		B209	*阿保敏広・勝山健一(気象庁観測システム運用) 他 2 名 ウィンドプロファイラを用いた竜巻事例におけるストーム相対ヘリシティの調査

大会第2日 [5月14日] 9:30~11:30 一般口頭発表

(*印は講演者を表す)

C 会場

微量気体

座長：石戸谷 重之(東北大院理)

- C201 *寺尾有希夫(環境研)・Jennifer Logan(ハーバード大) Consistency of time series and trends of stratospheric ozone as seen by ozonesonde, SAGE II, HALOE, and SBUV(2)
- C202 *秋吉英治(環境研)・L.B. Zhou(中国科学院大気物理研究所) 北半球中高緯度および北極渦内下部成層圏 N₂O 濃度と北極渦崩壊時期
- C203 *宮崎和幸(FRCGC)・須藤健悟(名大院) 局所アンサンブル変換カルマンフィルタを用いた大気微量成分データ同化システムの開発
- C204 *澤庸介(気象研)・町田 敏暢(環境研) 他7名 定期航空機で観測された圏界面付近の二酸化炭素濃度の変動
- C205 *石戸谷重之(東北大院理)・菅原敏(宮城教育大) 他3名 成層圏において観測された大気主要成分の重力分離
- C206 *近藤裕昭・村山昌平(産総研) 他7名 安定大気境界層中の物質輸送の研究-ラドンをトレーサとして-
- C207 *斎藤琢(岐阜大流域圏) 他2名 急斜面上に位置する常緑針葉樹林における熱収支のインバランスについて
- C208 花岡慶賢・*山本晋(岡山大院環境) 他2名 水稲群落における夜間吸収CO₂フラックスの選抜
- C209 *岩田徹・渡邊千香子(岡山大院環境) プロファイル法による海面二酸化炭素フラックス

D 会場

大気力学

座長：高木 征弘(東大院理)

- D201 *城戸敦嘗(九大大気海洋環境システム)・和方吉信(九大応力研) AGCMによる金星大気大循環における多重平衡解の再現
- D202 *池田恒平(東大気候システム)・山本勝(九大応力研) 他1名 大気大循環モデルを用いた金星大気スーパーローテーションの研究
- D203 *高木征弘(東大院理)・松田佳久(学芸大) 金星大気スーパーローテーションに対する熱潮汐波の力学的効果(2)
- D204 *高橋芳幸・林祥介(北大院理) 他2名 火星大気大循環モデルで見られた日変化する小規模渦
- D205 *小郷原一智・里村雄彦(京大院理) トラフに伴う低気圧性渦と火星ダストの挙動の関係
- D206 *杉山耕一朗・小高正嗣(北大院理) 他2名 木星大気の雲対流の直接数値計算: 対流運動と雲分布の凝結成分存在度に対する依存性
- D207 *前島康光・伊賀啓太(東大海洋研) 帯状収束雲上に見られる渦状擾乱の非線形発展-線形安定論における不安定モードとの対応-
- D208 *伊藤久徳・石井美里(九大院理) 渦と渦の相互作用から見る様々な現象-特に二次元乱流について-

大会第3日 [5月15日] 9:30~11:30 一般口頭発表

(*印は講演者を表す)

A 会場 気象予報 II 座長：及川 博史(JAXA)	B 会場 降水システム I 座長：出世 ゆかり(NICT)
<p>A301 *間瀬博文(所属なし) 竜巻を駆動する向心力と同種のものに因る？熱気球の不思議な動き</p> <p>A302 *柳野健(気象研) ローレンツシステムの第三種予測性—計算スキーム敏感性</p> <p>A303 *及川博史・井之口浜木 (JAXA) 2005年3月18日関東での乱気流域発生メカニズム(寒冷前線型・温度逆転層の発生)</p> <p>A304 *及川博史・井之口浜木 (JAXA) 十勝平野における冬季乱気流域発生メカニズム(日高山脈からの山岳波と等温位層の流入)</p> <p>A305 *竹見哲也・畑村真一(東工大総理工) 他1名 微細地形の影響を受ける風の局所性に関する超高解像度計算</p> <p>A306 *吉野純・田中章(岐阜大院工)他2名 風力発電量予測のための短期風況予測技術の開発</p> <p>A307 *大泉三津夫(気象研)他2名 MRI/JMA-SIBによる積雪・融雪情報の利用</p> <p>A308 *稲葉守生・小寺邦彦(気象研) 全球大気モデルを用いた2005年12月の予報における初期値及び下部境界条件依存性</p>	<p>B301 *篠田太郎・真木亮(名大地球水循環)他3名 梅雨期に東アジアで観測された降水セルの統計的特徴</p> <p>B302 *出世ゆかり・高橋暢宏(NICT)他3名 COBRA観測による対流性降水域の融解層高度—沖縄地方の梅雨前線事例について—</p> <p>B303 *東邦昭(神戸大院自然)・山中大学(IORGC)他4名 2006年梅雨期に近畿地方を通過した線状降水帯</p> <p>B304 *彭新東・高橋桂子(地球シミュレータ) MSSGによる2006年7月九州豪雨のシミュレーション</p> <p>B305 *津口裕茂・上山仁司(大阪管区气象台) 2006年8月22日の豊中豪雨</p> <p>B306 *山田芳則(気象大)・赤枝健治(気象庁観測) 2005年9月4~5日に豪雨をもたらしたバンド状降水雲のドップラーレーダー解析(その2)</p> <p>B307 *用貝敏郎(福岡管区气象台) 2007年9月16日、佐賀県で発生した記録的短時間大雨—下層の空気塊を自由対流高度まで持ち上げてくれる外部強制力のウィンドプロファイラによる検出—</p> <p>B308 *山本勝(九大応力研) 2001年10月9~10日の黄海・東シナ海と日本海・日本南岸の二つ玉低気圧の数値実験</p> <p>B309 *中井専人(防災科研)・坪木和久(名大地球水循環)他3名 2005/2006冬季降雪時における内陸地上気象要素の再現性</p>

大会第3日 [5月15日] 9:30~11:30 一般口頭発表

(*印は講演者を表す)

C 会場

大気境界層 I

座長：酒井 敏(京大院人間環境)

- C301 *安井元昭 (NICT)・劉立超 (中国科学院寒区旱区環境与工程研究所) 他 4 名 中国内陸部砂漠上空境界層におけるダスト鉛直輸送——2004年6月のシーロメーター観測結果——
- C302 *大塚清敏(大林組技研)
T0423 広戸風における臨界層の役割に関する 2 次元の数値実験
- C303 *中西幹郎 (防衛大地球海洋)・新野宏 (東大海洋研)突風被害を生ずる可能性のある台風境界層内のロール状構造
- C304 *山田哲二(YSA)
建物間の”風の道”が都市での汚染物質の濃度分布に与える影響に関する数値シミュレーション
- C305 *大西将徳・酒井敏(京大院人間環境)
日本列島上空に吹く日変化、年変化する水平対流
- C306 *藤原忠誠(北大院環境科学)・藤吉康志(北大低温研) 他 1 名 ドップラーライダーを用いたサーマルの発生条件と空間構造
- C307 *岩井宏徳 (NICT) 他 7 名
仙台空港におけるベクトル風のデュアルドップラーライダー観測
- C308 *岩井宏徳 (NICT) 他 6 名
コヒーレントドップラーライダーによる仙台空港における海風の観測

D 会場

中層大気

座長：渡辺 真吾(FRCGC)

- D301 *水野亮・杉本朋世(名大 STE 研) 他 9 名
チリ・アタカマ高地における成層圏・中間圏 $H_2^{18}O$ の時間変動観測
- D302 *稲飯洋一(北大院環境科学) 他 6 名
TTL 水蒸気 MATCH を用いた水平移流に伴う脱水の評価
- D303 *美談年民・宮原三郎(九大院理) 他 1 名
赤道域対流圏界面付近に cold-point が停滞する理由
- D304 *柴田清孝・出牛真(気象研)
赤道成層圏準二年振動(QBO)の子午面構造(化学—気候モデル過去再現実験と観測との比較)
- D305 *宮崎和幸(FRCGC)・岩崎俊樹(東北大院理)
成層圏亜熱帯および極渦縁辺におけるトレーサー濃度勾配の形成機構
- D306 *西井和晃・中村尚(東大院理)
アンサンブル予報を用いた成層圏突然昇温予測の初期値誤差場への依存
- D307 *杉本憲彦(名大院工)・石井克哉(名大情連基セ)球面浅水系におけるジェットからの重力波放射

大会第4日 [5月16日] 9:30~11:30 一般口頭発表

(*印は講演者を表す. [OHP]はOHPを使用する講演を示す.)

A 会場		B 会場	
気候システム I		降水システム II	
座長 : 高橋 清利(気象研)		座長 : 那須野 智江(FRCGC)	
A401	*中澤哲夫(気象研) 台風上陸モードの季節推移	B401	*那須野智江(FRCGC)・佐藤正樹(東大気候システム)他4名 全球非静力学モデルを用いた惑星数値実験における降水特性
A402	*梶川義幸(国際太平洋研究センター)・BinWang(国際太平洋研究センター/ハワイ大気象)他1名 広域オーストラリアモンスーンの指標とその経年変動特性	B402	*上口賢治(気象研) 地形効果を取り込んだ高解像度降水データを用いた降水量と風に関する解析
A403	*鈴木恒明・二宮洗三(FRCGC)他2名 夏季インドモンスーンにおける対流抑制の効果	B403	*山岬正紀(FRCGC) 赤道上の島における対流の日変化:20km 格子モデルによる理想化実験
A404	*谷田貝亜紀代(地球研) インドの日降水量解析とグリッド化による影響評価	B404	*安永数明(IORGC)他2名 Melting Layer Cloudの生成過程に関する数値実験
A405	*佐藤尚毅・米山邦夫(IORGC)他6名 ダイポール衰退期におけるMJOに伴う海洋表層の変動	B405	*川瀬宏明・木村富士男(筑波大院生命環境) 半乾燥域のモンゴルにおいて夏季の積雲対流活動に土壌水分と地形が及ぼす影響
A406	*井上誠・高橋正明(東大気候システム) 夏季アジアモンスーンに伴う対流圏一成層圏循環の変動(2)	B406	*二宮洗三(FRCGC) 大気大循環モデルで再現された南インド洋収束帯と北大西洋収束帯 [OHP]
A407	*田中博(筑波大計算科学)・鈴木一步(筑波大生命環境) 順圧大気場に見られる大西洋と太平洋の有意な相関について---北極振動モードの検証実験---	B407	*佐々木佳明・齋藤靖子(秋田県立大生物資源) 冬季の気象擾乱に伴う雲底高度の変動の特徴
A408	*澤井哲滋(気象大) 総観場から見た2005年冬と2006年冬の比較	B408	*カイサル・スラム(富山大人間発達科学) AMeDAS データから求めた北陸における最近26年間の豪雪と豪雨の変化

大会第4日 [5月16日] 9:30~11:30 一般口頭発表

(*印は講演者を表す)

C 会場		台風	D 会場
大気境界層 I			座長 : 筆保 弘徳 (IORGC)
	座長 : 塚本 修 (岡山大理)		
C401	*飯澤功 (京大院人間環境)・矢島新 (京大地環) 他5名 京都市におけるヒートアイランド現象の観測—地域レベルの熱慣性と、郊外から都市部への移流—	D401	*筆保弘徳 (IORGC) 降水・水蒸気安定同位体観測による台風内部水循環の研究
C402	*酒井敏・立木秀樹 (京大院人間環境) 他 2 名 地表面のフラクタル形状と大気に対する熱伝達率	D402	*加藤内藏進 (岡山大教育)・佐竹愛 (岡山大理) 他 2 名 2004 年 10 月後半の Ty0423 に伴う日本列島での広域の降水 (台風 18 号と比較して)
C403	*酒井敏・飯澤功 (京大院人間環境) 他 6 名 夜間のヒートアイランド強度とヒートアイランド循環	D403	*楠研一 (気象研) 他 9 名 メソ渦の存在を示唆するインナーコア周辺の地上風と気圧変動
C404	*塚本修・谷口玲子 (岡山大理) 他 1 名 打ち水にともなう地表面熱収支の変化	D404	*花房瑞樹 (北大院理)・遊馬芳雄 (琉球大理/ 北大院理) 台風の温帯低気圧化の客観的判断
C405	*高橋一之・三上岳彦 (首都大院都市環境) 東京都区部における夏期の気温分布と海陸風の挙動	D405	*初鹿宏壮 (富山県環境科学センター)・筒井純一 (電中研) JRA-25長期再解析データによる熱帯低気圧の最大ポテンシャル強度
C406	*常松展充・岩井宏徳 (NICT) 他 7 名 ドップラーライダーとWRFを用いた海風卓越時における東京上空の風の鉛直構造に関する事例解析	D406	*栗原和夫・村崎万代 (気象研) 地域気候モデルで再現された台風と大規模場強制力のスケール
C407	*川村誠治・大野裕一 (NICT) 他 1 名 NICT ウィンドプロファイラの長期観測データに見られる都市大気境界層の振舞い	D407	*上野充 (気象研) 台風境界層内の風の非対称と環境風の鉛直シアー
		D408	*吉岡真由美 (東大海洋研/JAMSTEC)・栗原宜夫 (FRGC) 大気大循環モデルを利用した水惑星実験に見られる熱帯低気圧性擾乱(その 3)

大会第4日 [5月16日] 13:30~17:00 一般口頭発表

(*印は講演者を表す)

A 会場 気候システム II 座長：山崎 信雄(気象大)	B 会場 雲物理 座長：島 伸一郎(地球シミュレータ)
<p>A451 *水野量・大西雄基(気象大) アメダスデータを用いた積雪の再現期待値推定</p> <p>A452 *礒部英彦・福山幸生(気象庁気候情報) 台風が存在時間と大雨日数の変化傾向</p> <p>A453 *藤部文昭(気象研) 近年の日本の気温上昇傾向における都市効果</p> <p>A454 *山崎信雄(気象大)・千葉長(気象研) 他 3 名 日本付近の冬の強い降水と周辺場の関連</p> <p>A455 *谷貝勇(気象大) 地球温暖化の影響を受ける 台風、前線、オホーツク海高気圧 について(その2) 2006年7月の前線活動について</p> <p>A456 *鈴木健太郎・山崎信雄(気象大) 他 1 名 Koeppen の気候区分図の検証とそれを用いた気候変動の研究</p> <p style="text-align: center;">座長：行本 誠史(気象研)</p> <p>A457 *阿部彩子(東大気候システム/FRCGC)・瀬川朋紀(FRCGC) 他 1 名 北半球の氷期氷床分布は何で決まるか?</p> <p>A458 *大石龍太(東大気候システム)・阿部彩子(東大気候システム/FRCGC) 最終氷期極大期における気候動態植生相互作用</p> <p>A459 *吉村純(気象研)・水田亮(AESTO/気象研) 他 4 名 20km 格子全球大気モデルにおける台風-温暖化タイムスライス実験での海面水温への依存性について -</p> <p>A460 *楠昌司(気象研) 他 3 名 地球温暖化予測に伴う不確実性の定量化</p> <p>A461 *小畑淳(気象研) 北大西洋への淡水流入に対する気候炭素循環モデルの応答-産業革命以後の温暖化実験について-</p> <p>A462 *行本誠史・保坂征宏(気象研) 他 気象研究所地球システムモデルの開発 -モデル概要と予備実験結果 -</p> <p>A463 *竹村俊彦(九大応力研)・松澤佳奈子(九大院総理工) 全球モデルへのエアロゾル・氷雲相互作用のパラメタリゼーションの導入</p> <p>A464 *篠田太郎(名大地球水循環)・渡部雅浩(北大院地球環境) 他 1 名 GCM 格子スケールでの総水量の確率密度分布 ~ 雲解像モデルの結果を用いた解析 ~</p> <p>A465 *関口美保(海洋大工)・中島映至(東大気候システム) 新放射コードの開発 その4-パラメータテーブルの再設定</p>	<p>B451 *田尻拓也・山下克也(気象研) 他 3 名 MRI 雲生成チャンバーによる雲物理実験(その2) 吸湿性粒子シーディングによる雲粒生成実験</p> <p>B452 *山下克也・田尻拓也(気象研) 他 3 名 エアロゾル・雲粒子センサーで計測した雲生成時の粒径分布の変化 MRI 雲生成チャンバー雲物理実験より</p> <p>B453 *橋本明弘・村上正隆(気象研) 他 3 名 3次元非静力学モデルを用いた最適シーディング法の開発</p> <p>B454 *佐藤可織・岡本創(東北大院理) 他 3 名 氷晶雲微物理量抽出とクラスター解析の適用結果</p> <p>B455 *島伸一郎・草野完也(地球シミュレータ) 他 2 名 超水滴法による雲-エアロゾル相互作用の評価に向けた試み</p> <p>B456 *久芳奈遠美(FRCGC)・三隅良平(防災科研) 暖かい雨に対する凝結核散布の効果に関する数値実験-ハイブリッド雲微物理モデルによる人工降雨実験事前評価の試み-</p> <p>B457 *脇水健次・真木太一(九大院農) 他 9 名 北部九州における冬季積雲への液体炭酸散布人工降雨実験</p> <p>B458 *中村晃三(FRCGC,JAMSTEC)・藤吉康志(北大低温研) 他 2 名 DYCOMS-II で観測された境界層雲の数値実験 その2:バルク法による雲微物理過程のパラメタリゼーションの影響について</p> <p style="text-align: center;">座長：岩波 越(防災科研)</p> <p>B459 *出原幸志郎・水野量(気象大) 日本周辺における雷活動の統計解析</p> <p>B460 *坪木和久・金子大志(名大地球水循環) 他 1 名 雷モデルの開発</p> <p>B461 *高橋暢宏・井口俊夫(NICT) TRMM/PR による全球の雨滴粒径分布モデルパラメータの推定</p> <p>B462 *萩原雄一朗・岡本創(東北大院理) 他 4 名 衛星搭載イメージャとアクティブセンサによる水雲の雲物理特性の比較</p> <p>B463 *岩波越・前坂剛(防災科研) 他 4 名 Xバンド偏波レーダーによる降雨観測における簡易減衰補正</p> <p>B464 *西垣語人(気象庁予報) 統計力学的なエントロピー増大の法則に基づくサブグリッドスケールの確率論的雲量推定</p>

大会第4日 [5月16日] 13:30~17:00 一般口頭発表

(*印は講演者を表す)

C 会場

気象教育

座長：樋口 篤志(千葉大 CEReS)

- C451 *加藤内藏進(岡山大教育)・加藤晴子(くらしき作陽大音楽) 他 1名 日本の春の季節進行を題材にした気象と音楽の連携(小学校での授業実践)
- C452 *名越利幸(町田市立小山田中学校)
Web カメラを利用した雲の観察のための教材開発

観測手法

座長：樋口 篤志(千葉大 CEReS)

- C453 *樋口篤志(千葉大 CEReS)・岡崎絵理(千葉大理) MODIS による高空間分解能雲頻度マップの作成～日本付近の雲発生頻度の地域特性について～
- C454 *中島孝(東海大)・鈴木健太郎(東大気候システム) 広域雲特性観測から得られる雲成長過程に関する情報について
- C455 *棚橋修一(富士通株)・後藤あずみ(気象協会) 他 4名 ひまわり6号(HRIT)による日射量推定システムの雪氷域対応
- C456 *後藤あずみ・増田有俊(気象協会) 他 5名 雪氷域判別による日射量推定精度の向上

座長：植松 明久(NICT)

- C457 *大池八十美・小久保健治(明星電気) 他 3名 ARSの防風板の構造について
- C458 *藤田真・柴田耕志(明星電気) 他 2名 GPS ラジオゾンデにおける測風手法—気球下の振り子運動とフィルタリング
- C459 *清水健作・浅沼達彦(明星電気) 他 3名 小型サーミスタを用いたラジオゾンデによる高高度気温観測—気球からの後方流とそのフィルタリング除去—
- C460 *古本淳一・大西正典(京大生存研) 他 4名 400MHz 帯ウインドプロファイラ・RASS 観測による亜熱帯域温度微細構造の観測
- C461 *濱田篤・西憲敬(京大院理) 他 2名 CloudSat ミリ波雲レーダと MTSAT 赤外 split-window を用いた熱帯域乱層雲・巻雲の幾何・光学特性の推定
- C462 *山本真之・TriHandoko Seto(京大生存研) 他 6名 赤道大気レーダーとライダーによる熱帯対流圏中層の非降水雲の観測
- C463 *植松明久・大野裕一(NICT) 他 3名 衛星搭載雲レーダによるドップラー速度バイアスの評価
- C464 *勝山健一(気象庁観測システム運用) 気象庁の降水実況監視用レーダープロダクト
- C465 *佐藤俊裕・宮城仁史(気象庁観測システム運用) レーダー3次元データによる指数の降水時における出現特性

D 会場

熱帯大気

座長：牛山 朋来(IORGC)

- D451 *山中大学(IORGC)・橋口浩之(京大生存圏研) 他 19名 海大陸の気候力学・天気予報概念の構築を目指して:HARIMAU (Hydrometeorological ARray for Isv-Monsoon AUtomonitoring)計画
- D452 *森修一(IORGC) 他 13名 インドネシアスマトラ島における HARIMAU2006 集中観測結果(概要)
- D453 *藤吉康志(北大低温研) 他 6名 赤道大気上下結合(CPEA-I・II)集中観測期間中にみられたレーダーエコーの移動・発達・日周期特性
- D454 *高藪縁(東大気候システム) TRMM-RPF(降雨/発雷比)を利用した海陸の降雨特性解析
- D455 *清水亜矢子(IORGC)・高藪縁(東大気候システム) 他 4名 2006年秋～冬季にインド洋上でみられた季節内変動
- D456 *米山邦夫・安永数明(IORGC) 他 12名 2006年10-12月 MISMO 集中観測期間中の熱帯インド洋の大気場の特徴について
- D457 *安永数明(IORGC) 他 5名 MISMO 期間中に観測された降水活動の半日及び日周期
- D458 *横山千恵・高藪縁(東大気候システム) インド洋赤道域と西太平洋赤道域における降雨特性と海面水温の関係

座長：森 修一(IORGC)

- D459 *牛山朋来・安永数明(IORGC) 他 7名 MISMO 集中観測期間中のモルディブレーダーにとらえられた対流の日変化と大気湿潤化過程について
- D460 *茂木耕作・城岡竜一(IORGC) アンサンブルカルマンフィルタを用いた PALAU2005 ドロップゾンデデータの同化インパクト
- D461 *西憲敬・濱田篤(京大院理) 他 2名 圏界面付近で大增幅した赤道ケルビン波の構造
- D462 *吉崎正憲(IORGC)・那須野智江(FRCGC) スーパークラウドクラスターの東進のメカニズムについて(2)
- D463 *檀本剛(地球シミュレータ)・山根省三(千葉科学大/FRCGC) 他 1名 ALERAを初期値とした熱帯季節内振動のアンサンブル実験
- D464 *大塚成徳・余田成男(京大院理) 熱帯対流圏中層に見られる層状構造の季節変化に関する数値実験
- D465 *山田由貴子(北大院理)・石渡正樹(北大院地球環境) 他 2名 水惑星実験における赤道域降水パターンに対する鉛直乱流混合過程の影響

大会第1日 [5月13日] 11:30~12:30 ポスター・セッション

キーワード:物質循環・相互作用・都市気象・気象予報・大気力学・中層大気・大気放射・
中高緯度大気・気候システム・竜巻・大気電気 他 (*印は講演者を表す)

- P101 松田結(気象庁)・*和田晃(気象大) 他5名
気象庁の大気バックグラウンド汚染観測所における
一酸化炭素濃度変動の解析
- P102 *室崎将史(東京理大理)・藤田慎一(電中研)
他3名 富士山におけるオゾン濃度と二酸化窒素
濃度の鉛直分布の測定
- P103 *宮川幸治(高層気象台)
反転観測の再解析から得られる長期オゾントレンド
- P104 *寺尾有希夫(環境研)・Jennifer Logan(ハーバード大)
Correlation in interannual variability of
ozone between lower stratosphere and
troposphere
- P105 *Kadarsah Riadi(東工大院理工) 他2名
Application of REMOTE to study of the spreading
of forest fire smoke in the atmosphere over
Indonesia 1996-1998
- P106 *市井和仁(福島大理工)
衛星データを用いた陸域生物圏モデルの向上
- P107 *丹羽洋介・今須良一(東大気候システム)
他5名 NICAMを用いたCO₂地表面フラックスのイン
バージョン解析
- P108 *三浦和彦・藤代恵史(東京理大理) 他5名
富士山頂で測定したエアロゾル粒径分布への谷
風の影響
- P109 *清水厚・杉本伸夫(環境研) 他1名
ミー散乱ライダーによる雲底下のエアロゾル後方
散乱係数導出
- P110 *財前祐二・岡田菊夫(気象研) 他2名
揮発特性による大気エアロゾル粒子の混合状態
の測定
- P111 *直江寛明(気象研)
DMS サイクルにおける海塩粒子への捕捉消失過程
- P112 *篠田佳宏・五十嵐康人(気象研) 他5名
2006年春季につくばで観測したダストイベントの
解析
- P113 *五十嵐康人・青山道夫(気象研) 他2名
人工放射能の降水量からみた風送ダスト輸送
- P114 *大島長・小池真(東大院理) 他6名
人為起源ブラックカーボンの混合状態の時間的
変化とその要因 層圏オゾン変動と重力波との関
係—エアロゾルの粒径分布と混合状態を表現した
新しいモデルの開発—
- P115 *大久保さゆり・三上岳彦(首都大都市環境)
関東地方におけるSPM(浮遊粒子状物質)濃度お
よびその空間分布パターンの長期変動
- P116 *中川慎治・萩野谷成徳(気象研)
牧草地におけるポテンシャル蒸発量と実蒸発量の
関係
- P117 *加藤知道(FRCGC)・伊藤昭彦(環境研) 他1
名 20世紀の大気—陸域生態系間相互作用にお
ける陸域炭素循環の役割
- P118 *稲垣厚至・神田学(東工大院理工)
都市接地境界層内部スケールによる乱流統計量
の相似性
- P119 *Hossain Md. Maruf・吉野純(岐阜大院工) 他2
名 Numerical experiments of the urbanization
influence on the climate of Tokai area, Japan,
using an urbanized mesoscale meteorological
model
- P120 *津國眞明・森脇亮(東工大) 他1名
屋外模型都市におけるPIVを用いた乱流計測
- P121 小田義裕・*久田由紀子(九大院総理工) 他1
名 海風侵入に伴う福岡都市圏の気温変化
- P122 *田中博春(首都大都市環境)・又吉直樹(JAXA)
他2名 汐留地区のビル群が海風の風下地域に
及ぼす影響評価(3) —パイロットバルーン・ヘリコプ
ター・ドップラーライダーによる同期観測の結果から—
- P123 *根本由紀子(気象予報士会)
最高気温と標準偏差で見る夏の特徴
- P124 *近藤圭一(筑波大自然)・田中博(筑波大計算科
学) 順圧大気循環モデルによるアンサンブル・
カルマンフィルタの実験
- P125 *杉村剛(名大院理)・高橋桂子(ESC)
Voronoi Reduced Grid
- P126 *加藤敦・眞木雅之(防災科研)
大倉博 マルチパラメータレーダ雨量を用いたナ
ウキャスト
- P127 *黒田徹(気象研/JST)・川畑拓矢(気象研)
NHM-4DVARの評価関数最適化アルゴリズムの
検討
- P128 *清水慎吾・前坂剛(防災科研) 他4名
2001年8月22日埼玉県羽生市で発生した台風
11号に伴う竜巻の発生予測実験
- P129 *大門禎広(気象予報士会)
雲断面図による時系列予報
- P130 *金久博忠(気象大)
質量平均速度を基準速度に選ぶことについて
- P131 *荒木健太郎・金久博忠(気象大) Eady model
における β の影響
- P132 *小玉知央・岩崎俊樹(東北大院理)
対流圏上部・下部の傾圧性と傾圧不安定波動に
関する水惑星実験
- P133 *山森美徳(都留文大)・村山泰啓(NICT) 他3
名 オゾンゾンデ3時間毎観測に現れた下部成層
圏オゾン変動と重力波との関係
- P134 *落合啓(NICT)・西堀俊幸(JAXA) 他
JEM/SMILES リム放射スペクトルデータの導出と
較正処理
- P135 *渡邊友紀・重尚一(大阪府大院工) 他2名
放射伝達モデルを用いたTRMM降雨プロダクトの
地域的・季節的な検証
- P136 *朽木勝幸・青木輝夫(気象研) 他3名
双方向反射率に対する地表面ラフネスの効果
- P137 *山崎明宏・内山明博(気象研) 他2名
エアロゾル散乱係数の湿度特性の測定
- P138 *鈴木香寿恵(総研大)・山内恭(極地研)
他1名 南極氷床沿岸部および内陸部への大気
輸送経路

- P139 *竹本麻紗子 (筑波大院環境科学)・田中博 (筑波大計算科学) 対流圏上層と下層におけるハドレー・ウォーカー・モンスーン循環強度の比較
- P140 *八木晃司・花輪公雄 (東北大院理)
2005年12月と2006年12月の大気大循環場と日本の天候
- P141 *長島佳菜 (IORGC)・多田隆治 (東大院理) 他4名 日本海に堆積する黄砂の供給源とその変動について
- P142 *赤坂郁美 (首都大院)・森島済 (江戸川大) 他2名 フィリピンにおける降水の季節変化異常 -1998～2000年を事例として-
- P143 *佐川智孝・児玉安正 (弘前大理工) 他1名 RAMSを用いたSACZの形成要因に関する研究 (その2)
- P144 *櫻井溪太 (富山大理)・川村隆一 (富山大院理工) 日本で発生する竜巻などのシビアストームの予測可能性
- P145 *菅原祐也・小林文明 (防衛大地球海洋) ドップラーレーダ観測による寒冷前線上の渦構造～2006年4月20日藤沢竜巻の事例～
- P146 *古川訓男 (高知大理院)・佐々浩司 (高知大理) 他1名 線状降水帯の対流雲と落雷分布 (2004年8月17日高知県大川村の事例)

大会第2日 [5月14日] 11:30~12:30 ポスター・セッション

キーワード:物質循環・相互作用・都市気象・気象予報・大気力学・中層大気・大気放射・
中高緯度大気・気候システム・竜巻・大気電気 他 (*印は講演者を表す)

- P201 *佐竹晋輔・早坂忠裕(地球研)他3名
化学物質輸送モデルとライダー観測データ解析によって示された東アジア域のエアロゾル鉛直分布の特徴
- P202 *池上雅明・松本康志(気象庁)他7名
気象庁黄砂予測モデルの改良
- P203 *金憲淑・甲斐憲次(名大院環境)
Recent dust outbreaks in the Taklimakan Desert and their relation to surface wind and the land surface
- P204 *鈴木攻祐・中西幹郎(防衛大地球海洋)他1名
フーリエ解析を用いた降水による汚染物質除去量の推定—雨はどれほどの大気汚染物質を洗い流しているか?—
- P205 *原圭一郎(福岡大理)・長田和雄(名大院環境)他5名
南極昭和基地でのブラックカーボン濃度変化とその特徴
- P206 *忠鉢繁(気象研)
南極オゾンホール開始時期
- P207 *小林あき(気象庁環境気象)
2006年の南極オゾンホールと気象場との関係
- P208 *町田敏暢(環境研)・松枝秀和(気象研)他7名
民間航空機を利用した大気中CO₂濃度の鉛直分布観測
- P209 *松枝秀和(気象研)・町田敏暢(環境研)他7名
定期航空機によるフラスコサンプリングで観測されたメタン濃度の変動
- P210 *和田晃(気象大)・村山昌平(産総研)他7名
高時間分解能をもつラドン濃度測定方法の改良
- P211 *村山昌平(産総研)・澤庸介(気象研)他7名
気象研究所鉄塔で観測された大気中ラドンとCO₂濃度の日々の変動
- P212 *近藤裕昭(産総研)・菅原広史(防衛大地球海洋)他7名
気象研鉄塔で観測された夜間の安定成層状態と乱流輸送
- P213 *石島健太郎(FRCGC)・村山昌平(産総研)他7名
冷温帯落葉広葉樹林と気象研究所構内における土壌水分量及びラドンフラックスの測定—2006年集中観測結果—
- P214 *小谷亜由美(JST)・杉田倫明(筑波大院生命環境)粗密度草原における熱輸送パラメータの推定
- P215 *飯泉仁之直・木村富士男(筑波大院生命環境)トルコ・チュコロバ平野の夏期低層雲に対する灌漑農業の影響
- P216 *小田僚子・神田学(東工大理工)
東京湾内湾全域における海表面温度連続自動計測システム
- P217 *仲吉信人・森脇亮(東工大)他1名
屋外模型都市における遮断蒸発特性に関する研究
- P218 *大平満・高橋桂子(ESC)他1名
全球/領域/都市域統合・非静力学大気シミュレーションコード MSSG-A の開発
- P219 *大和広明(首都大院)・三上岳彦(首都大)他
広域首都圏における夏季のヒートアイランド現象
- P220 *久田由紀子・大賀隆史(九大院総理工)他2名
福岡平野における都市の発展にともなう風の変化
- P221 *菅原広史(防衛大地球海洋)・成田健一(日工大建築)他5名
都市キャンピアーの熱収支—銀座周辺における実測—
- P222 *近藤由美・神田学(東工大)
気象モデルのための都市植生オアシス効果のモデリング
- P223 *澤井哲滋・藤壺淳平(気象大)
数値予報データを用いた大気現象の三次元表示に関する研究—台風北上過程の表示—
- P224 *堀之内武(京大生存研)・西澤誠也(京大数理)他
地球流体データの公開・共有・解析・可視化のためのツール Gfdnavi の開発
- P225 *吉野純・片山純(岐阜大院工)他1名
メソ気象モデル MM5 によるピンポイント降水量予測の精度について
- P226 *三好建正(気象庁数値予報)・山根省三(千葉科学大/FRCGC)他1名
Local patch を使わない新しい LETKF の実装
- P227 *日下博幸(筑波大計算科学)・川瀬宏明(筑波大院生命環境)他1名
冬季南岸低気圧通過時の関東平野の低温形成に及ぼす山岳の影響:メソ気象モデル WRF を用いた数値実験
- P228 *鈴木一歩(筑波大院生命環境)・田中博(筑波大計算科学)
大気の順圧成分に見られるテレコネクション
- P229 *高橋桂子(ESC)・瀧上弘光(NIS)他5名
MSSG による水平解像度 1.9km 全球大気シミュレーション
- P230 *檜尾守昭(気象大)・前島康光(東大海洋研)
爆弾低気圧の発達メカニズムの理解に向けて(1): 湿潤大気の方程式系によるスケール解析
- P231 *庭野匡思(東京管区気象台)
温帯低気圧に伴う地上強風発現メカニズムについて
- P232 *坂見智法・保坂征宏(気象研)
Hinesの重力波抵抗パラメタリゼーションにおける鉛直解像度依存性と確率過程の導入
- P233 *富川喜弘(極地研)・佐藤薫(東大院理)
オゾン層状構造と南極オゾンホール内への質量輸送
- P234 *大西将徳・渡辺雅之(京大院人間環境)他1名
振動子強度を用いた大気の散乱断面積の物理的考察

- P235 *千葉長・高橋清利(気象研)他2名
JRA-25 熱収支解析 - 大気上端及び放射収支
- P236 *工藤玲(気象研)他3名
直達光・散乱光からのエアロゾルの光学特性の推定
- P237 *加藤真悟(筑波大自然)・田中博(筑波大計算科学) 順圧大気大循環モデルを用いた2005/06年冬および2006/07年冬における北極振動指数の予測実
- P238 *小笠原拓也・川村隆一(富山大院理工)
日本の夏季天候に影響を与える遠隔伝播パターンの複合について
- P239 *氏家将志(気象庁気候情報)
温位面に基づく EP- flux を用いた運動量収支解析
- P240 *鈴木博人・加藤亘(JR 東日本防災研究所)
日本の積雪地域における大雪の出現頻度と気温の関係
- P241 *サンガ・ンゴイカザディ・宗本政紀(三重大生物資源) GISと衛星データを用いたサヘル地域の干ばつに関する環境気候解析
- P242 *原田やよい(気象庁気候情報)
平成18年7月豪雨をもたらした環境場としての循環場の解析
- P243 *小林文明・菅原裕也(防大地球)
最近10年間のわが国における竜巻の統計的特徴
- P244 *宮崎忠臣・岡田富男(前工大) 他6名
北関東における夏季雷雲の総合観測
- P245 *中村佳敬・秋田学(阪大院工) 他4名
ウィンドプファイラレーダとVHF波帯広帯域デジタル干渉計による雷活動時の大気の流れに関する事例解析(2)

大会第3日 [5月15日] 11:30~12:30 ポスター・セッション

キーワード: 気象教育・大気境界層・観測手法・雲物理・気候システム・
熱帯大気・台風・降水システム 他 (*印は講演者を表す)

- P301 *高橋庸哉 (北教大)・坪田幸政 (桜美林大)
WHAT DO STUDENTS FIND OUT FROM
SATELLITE IMAGES?
- P302 *高橋厚裕 (地球研)・檜山哲哉 (名大地球水循環)他3名 夏季の中国・黄土高原南部で観測された大気境界層と自由大気間の水蒸気交換量の日々変化
- P303 *西川将典 (名大地球水循環) 他5名
中国・黄土高原における対流雲発生時の大気境界層とその再現実験
- P304 斎藤恭央・*菅原広史(防衛大地球海洋) 他3名
積雪の有無による夜間冷却量の違い
- P305 *田畑弾(富山大院教育)
富山県平野部の風速に対する風向分布と地形効果
- P306 *関隆則(気象予報士会)
日射加熱率で見た、盆地における気温変化の特徴
- P307 *廣岡智・稲垣厚至 (東工大大院理工) 他1名
乱流組織構造の定量的把握
- P308 *石田祐宣 (弘前大理工)・松島大 (千葉工大工) 他1名
野外観測による乱流輸送量面的分布の統計解析
- P309 *小司禎教 (気象研)・古本淳一 (京大生存圏) 他1名
GPS 掩蔽法:対流圏下層の品質管理について
- P310 *関澤信也・川村誠治 (NICT) 他1名
デフォーカス給電パラボラアンテナを用いたMSPC-WPR 自動観測システム
- P311 *木田智史・重尚一 (大阪府大院工) 他4名
TRMM 衛星搭載マイクロ波放射計と降雨レーダデータを用いた降雨と無降雨を識別するための雲水量の閾値の決定法の提案とその応用
- P312 *古本淳一・松ヶ谷篤史 (京大生存研) 他1名
周波数干渉計映像法を用いたMU レーダー・RASS 観測による気温の高高度分解能観測
- P313 *小野耕作・酒井敏 (京大院人間環境)
揚力を利用した翼型係留気球の開発
- P314 *佐藤陽祐・中島映至 (東大気候システム) 他1名
雲粒子成長における衝突・併合過程の乱数法を用いた計算
- P315 *奥田智洋 (防大地球) 他6名
海霧の粒径分布観測から得られた視程悪化時の特徴
- P316 *井上豊志郎・萩野谷茂徳 (気象研)
Pt. Reyes(カリフォルニア州)における下層雲と全天日射量
- P317 *五十嵐弘道 (JAMSTEC)・淡路敏之 (FRGC/京大院理) 降水効率変動から見た梅雨期降水量の年々変動について
- P318 *筒井純一・西澤慶一 (電中研) 他2名
太陽活動の11年周期変動が気候におよぼす影響: 大気大循環モデル WACCM による気候実験
- P319 *釜堀弘隆 (気象庁気候情報)・尾瀬智昭(気象研) 他3名
再解析に表現される陸域降水量と土壌水分量
- P320 *仲江川敏之(気象研)
全球大気モデルで再現された年最大月降水量の生起確率
- P321 *佐々木秀孝・高藪出 (気象研) 他3名
非静力学地域気候モデルによる現在気候再現実験
- P322 *村崎万代・佐々木秀孝 (気象研) 他3名
JRA-25 を境界条件とした地域気候モデルを用いた過去の気候再現実験
- P323 *渡来靖(筑波大陸域環境)
地球温暖化モデル実験における冬季北半球ブロッキングの発生頻度
- P324 *安田珠幾 (気象研)・高谷祐平(気象庁気候情報) 他1名
気象庁次期エルニーニョ予測システムの開発
- P325 *横島徳太・江守正多 (環境研) 他10名
CO₂平衡応答および過渡応答実験における気候フィードバック
- P326 *浜田純一・森修一 (IORGC) 他8名
HARIMAU2006 集中観測によるスマトラ島沿岸域の対流活動に関する研究
- P327 *横井寛 (東大院理)・松本淳(首都大院都市環境) 北東アジアモンスーン発達期に発生するコールドサージの研究
- P328 *児玉安正・谷澤宏樹 (弘前大理工) 他1名
CPEA-I期間中の風変動の運動量収支解析
- P329 *遠藤伸彦 (IORGC) 他4名
東南アジアにおける降水特性の長期変化
- P330 *岩崎杉紀 (防大)・松井一郎 (環境研) 他6名
キラバス、ピアックに設置したライダーによるSub visual Cirrus Clouds の同時観測
- P331 *和田章義 (気象研)・新野宏 (東大海洋研)
面上の台風渦の発達過程と海面水温の関係
- P332 *宮本佳明・石川裕彦 (京大防災研) 他1名
台風強風下における波浪の影響
- P333 *高野洋雄・村田昭彦 (気象研)
抵抗係数の波浪依存性が台風強度に与える影響
- P334 *下川信也・栢原孝浩 (防災科研) 他2名
熱力学的視点からの台風の活動度の解析について
- P335 *田中実(気象研)
北西太平洋地域における亜熱帯低気圧の発生とその地理的分布
- P336 *足立アホロ・小林隆久 (気象研) 他2名
台風0221号に伴うガストフロントの低層構造
- P337 *中村貴・檜尾守昭 (気象大)
台風第0410号に伴う四国の強雨の事例解析と成層不安定化の解釈
- P338 *北島尚子(気象研)
台風0423号の構造変化と大雨の特徴
- P339 *高橋桂子 (ESC)・後藤浩二 (NEC) 他5名
MSSGによる夏季の降雨分布再現実験
- P340 *尾上万里子・上田博 (名大地球水循環) 他1名
梅雨前線帯における対流性降水の地上雨滴粒径分布の特徴

- P341 *藤田実季子 (IORGC) ・ 木村富士男 (筑波大)
他 1 名 タイ湾上に発生する早朝の降水
- P342 *櫻井南海子 ・ 森修一 (IORGC) 他 13 名
HARIMAU2006 集中観測期間中に観測されたスマトラ島における西進する降水システムの内部構造について
- P343 *山本宗尚 (名大院環境) ・ 中村健治(名大地球水循環) TRMM データによる中緯度降水システムのマイクロ波放射特性
- P344 *猪上華子 ・ 足立アホロ (気象研) 他 2 名
関東地方における夏季雷雨発生時の水蒸気場の特徴
- P345 *瀬古弘 (気象研) ・ 山下寛 (大阪管区气象台)
他 4 名 近畿地方や中国・四国地方の線状降水帯の構造と維持機構(その1)

大会第4日 [5月16日] 11:30~12:30 ポスター・セッション

キーワード: 気象教育・大気境界層・観測手法・雲物理・気候システム・
熱帯大気・台風・降水システム 他 (*印は講演者を表す)

- P401 *日下博幸(筑波大計算科学)・渡来靖(筑波大陸域環境)他2名 筑波大学リアルタイム気象予測システムの開発
- P402 *玉川一郎(岐阜大流域圏)・壁谷健司(岐阜大院工) ドップラーソーダの製作
- P403 *齊藤龍・田中智章(環境研)他7名 筑波山近辺の気象不連続変化時における複数測器の相関と考察
- P404 *岩崎一晴(都立大理)・泉岳樹(首都大都市環境)他1名 メソスケール気象モデルを用いた羅臼だしの再現実験
- P405 *稲村友彦(都立大理)・松山洋(首都大都市環境)他6名 まつぼり風の数值シミュレーション～現実の地形と仮想的な地形を用いて～
- P406 *近藤文義・塚本修(岡大院自然) アスファルト面上での二酸化炭素輸送量評価におけるWebb補正の精度検証
- P407 *岩田徹・下重光次(岡山大院環境)他2名 渦相関法による海面CO₂フラックスの品質管理
- P408 塚本幸生・*山本晋(岡山大院環境)他3名 森林における夜間のCO₂流出量評価
- P409 *高橋琢也・河崎善一郎(阪大院工)他6名 パルス圧縮技術を用いた広帯域レーダにおける信号処理の検討
- P410 *石田春磨・中島孝(東海大情技センター) 地表面過程を分離したLook Up Table法による放射輝度計算
- P411 *久保田拓志(JST)・牛尾知雄(阪大院工)他4名 レーダー・アメダス解析雨量による衛星推定降雨量の検証
- P412 *吉田幸生・田中智章(環境研)他7名 短波長赤外フーリエ変換分光器(GOSAT-BBM)による二酸化炭素スペクトルの高地観測実験その2
- P413 *遠宮善陽・浅野正二(東北大院理)他4名 三陸沖における船舶・航空機観測データを用いた下層雲の雲物理特性の解析
- P414 *三隅良平(防災科研)・村上正隆(気象研)他8名 多次元ビン法による雪片と霰
- P415 *山尾理恵子・菅原広史(防衛大地球海洋)他4名 百里飛行場における霧発生時の気象状態について
- P416 *井上豊志郎(気象研)・井上智聖(筑波大学) ペルー沖の下層雲の季節変動
- P417 *山下陽介・高橋正明(東大気候システム) 太陽黒点11年周期変動、QBOと成層圏、対流圏の環状モードの関連性
- P418 *石原幸司(気象研) COBE-SSTを用いた全球平均気温平年差とその不確実性の評価
- P419 *高橋清利(気象研)・山崎信雄(気象大)他2名 再解析データにおける陸域日降水量特性の検証
- P420 *田中実(気象研) 20世紀における日本付近の冬の気温とシベリア高気圧・アリユーション低気圧・北極振動・ENSOの関係
- P421 *高藪出・佐々木秀孝(気象研)他4名 MJ-SiBを組み込んだ地域気候モデルによる積雪の再現について
- P422 *内山貴雄(気象研)・齋藤仁美(気象庁気候情報)他7名 領域大気海洋結合モデルを用いた日本の温暖化予測
- P423 *遠藤洋和(仙台管区気象台)他4名 20km格子地域気候モデルによるヤマセ型低温の再現性と将来予測
- P424 *足立恭将・行本誠史(気象研) アルベドと海水厚の取扱いの違いによる融解量と結氷量への感度実験
- P425 *Huiling QIN・H. Kawamura (Graduate School of Science, Tohoku University)他2名 Diurnal SST variations associated with the equatorial hot events MTSAT and in situ observations -
- P426 *宮川知己・高藪縁(東大気候システム)他6名 MISMO観測期間中のインド洋上におけるクラウドクラスターの振る舞い
- P427 *Tri Handoko Seto・M.K. Yamamoto(京大生存研) Observational study on westerly wind burst over Sumatra, Indonesia
- P428 *田畑悦和・橋口浩之(京大生存研)他7名 ウインドプロファイラー観測に基づくインドネシア海洋大陸域における日変化特性
- P429 *廣瀬祐城(筑波大第一学群)・植田宏昭(筑波大院生命環境)他2名 TRMMで観測された浅い対流の時空間分
- P430 *山中吾郎・安田珠幾(気象研)他5名 2006年秋の太平洋赤道域とインド洋の状況について
- P431 *吉田尚弘・吉野純(岐阜大院工)他2名 大気-海洋-波浪結合モデルを用いた台風直下の海面境界過程の理想実験
- P432 *和田章義(気象研) 表層海洋変動が台風に与える影響
- P433 *柳瀬亘(東大気候システム)他6名 水平解像度14kmの全球シミュレーションにおける熱帯低気圧の振る舞い
- P434 *村田昭彦・中澤哲夫(気象研)他2名 週間アンサンブル予報における台風発生環境場
- P435 *東佑次(三重大生物資源)・葛葉泰久(三重大院生物資源) T0514期間中における地形と降雨発生機構の関係に関する研究

- P436 *木下仁 (鹿児島地方気象台) 台風 0613 号の中心付近における発雷について
- P437 *渡邊嵩 (首都大都市環境) 他 2 名
台風経路の違いと山梨県内の雨量分布特性との関係について
- P438 *日置智仁 (富山大理)・川村隆一(富山大院理工) 台風の遠隔強制による豪雨発生の可能性について
- P439 *川瀬宏明(筑波大院生命環境) 筑波山気象観測ステーションで観測された冬の南岸低気圧の暖気移流
- P440 *今井真希・小林文明 (防衛大地球海洋) 他 4 名
夏季晴天時に東京都心周辺で形成される熱的低気圧
- P441 *筆保弘徳 (IORGC) 他 10 名 HARIMAU2006 期間中に観測された降水システムと降水同位体の関係
- P442 *M. Rafiuddin・Hiroshi Uyeda(名大地球水循環) 他 1 名 Characteristics of precipitation systems in and around Bangladesh during monsoon
- P443 *高橋暢宏 (NICT)・池上久通 (学芸大)
TRMM/PR における 0°C 高度を基準とした降水マップの作成
- P444 *森真理子 (高層気象台)・中里真久 (気象研) 他 1 名 2004 年 9 月 29 日尾鷲付近で発生した集中豪雨の事例解析(Ⅲ)
- P445 *瀬古弘・斉藤和雄 (気象研) 他 4 名
気象庁非静力学モデルを用いた日本域メソアンサンブル予報 (その1:規格化した現業週間アンサンブルの摂動を用いた実験)

講演者索引

< A >

Abe-ouchi Ayako (阿部彩子) A457
 Abo Toshihiro (阿保敏広) B209
 Adachi Ahoro (足立アホロ) P336
 Adachi Yukimasa (足立恭将) P424
 Akasaka Ikumi (赤坂郁美) P142
 Akiyoshi Hideharu (秋吉英治) C202
 Aoki Teruo (青木輝夫) C103
 Aonashi Kazumasa (青梨和正) A205
 Araki Kentarou (荒木健太郎) P131
 Asuma Yoshio (遊馬芳雄) B102
 Asuma Yoshio (遊馬芳雄) B205

< B >

Baron Philippe C155

< C >

Chiba Masaru (千葉長) P235
 Chubachi Shigeru (忠鉢繁) P206

< D >

Daimon Yoshihiro (大門禎広) P129
 Dehara Koshiro (出原幸志郎) B459
 Du Mingyuan (杜明遠) D156

< E >

Endo Hirokazu (遠藤洋和) P423
 Endo Nobuhiko (遠藤伸彦) P329
 Enomoto Takeshi (榎本剛) D463

< F >

Fudeyasu Hironori (筆保弘徳) D401
 Fudeyasu Hironori (筆保弘徳) P441
 Fujibe Fumiaki (藤部文昭) A453
 Fujinami Hatsuki (藤波初木) D162
 Fujita Makoto (藤田真) C458
 Fujita Mikiko (藤田実季子) P341
 Fujiwara Chusei (藤原忠誠) C306
 Fujiyoshi Yasushi (藤吉康志) B101
 Fujiyoshi Yasushi (藤吉康志) D453
 Fukushima Azusa (福島あずさ) D161
 Furukawa Norio (古川訓男) P146

< G >

Goto Azumi (後藤あずみ) C456
 Goto Daisuke (五藤大輔) C104

< H >

Hagihara Yuichiro (萩原雄一朗) B462
 Haginoya Shigenori (萩野谷成徳) D155
 Hamaad Jun-ichi (浜田純一) P326

< H >

Hamada Atsushi (濱田篤) C461
 Hanafusa Mizuki (花房瑞樹) D404
 Hara Keiichiro (原圭一郎) P205
 Hara Tabito (原旅人) A201
 Harada Yayoi (原田やよい) P242
 Hashiguchi Hiroyuki (橋口浩之) B103
 Hashimoto Akihiro (橋本明弘) B453
 Hatsushika Hiroaki (初鹿宏壮) D405
 Higashi Kuniaki (東邦昭) B303
 Higashi Yuji (東佑次) P435
 Higuchi Atsushi (樋口篤志) C453
 Hinokio Moriaki (檜尾守昭) P230
 Hioki Tomohito (日置智仁) P438
 Hirooka Satoshi (廣岡智) P307
 Hirose Yuki (廣瀬祐城) P429
 Hisada Yukiko (久田由紀子) P121
 Hisada Yukiko (久田由紀子) P220
 Hori Masatake (堀正岳) D101
 Horinouchi Takeshi (堀之内武) P224
 Hossain Md. Maruf P119

< I >

Iahida Haruma (石田春磨) P410
 Ichii Kazuhito (市井和仁) P106
 Igarashi Hiromichi (五十嵐弘道) P317
 Igarashi Yasuhito (五十嵐康人) P113
 Iizawa Isao (飯澤功) C401
 Iizumi Toshichika (飯泉仁之直) P215
 Ikeda Kohei (池田恒平) D202
 Ikegami Masaaki (池上雅明) P202
 Imai Maki (今井真希) P440
 Imasu Ryoichi (今須良一) C151
 Inaba Morio (稲葉守生) A308
 Inagaki Atsushi (稲垣厚至) P118
 Inai Yoichi (稲飯洋一) D302
 Inamura Tomohiko (稲村友彦) P405
 Inoue Hanako (猪上華子) P344
 Inoue Makoto (井上誠) A406
 Inoue Toshiro (井上豊志郎) P316
 Inoue Toshiro (井上豊志郎) P416
 Ishida Sachinobu (石田祐宣) P308
 Ishidoya Shigeyuki (石戸谷重之) C205
 Ishihara Koji (石原幸司) P418
 Ishijima Kentaro (石島健太郎) P213
 Isobe Hidehiko (磯部英彦) A452
 Itoh Hisanori (伊藤久徳) D208
 Iwai Hironori (岩井宏徳) C307
 Iwai Hironori (岩井宏徳) C308
 Iwanami Koyuru (岩波越) B463
 Iwasaki Kazuharu (岩崎一晴) P404
 Iwasaki Sugunori (岩崎杉紀) P330

< I >

Iwata Toru (岩田徹) C209
 Iwata Toru (岩田徹) P407

< J >

Junichi Furumoto (古本淳一) C460
 Junichi Furumoto (古本淳一) P312

< K >

Kadarsah Riadi P105
 Kajikawa Yoshiyuki (梶川義幸) A402
 Kamahori Hiroataka (釜堀弘隆) P319
 Kamiguchi Kenji (上口賢治) B402
 Kanehisa Hirotada (金久博忠) P130
 Kasai Yasuko (笠井康子) C154
 Kato Atsushi (加藤敦) P126
 Kato Kuranoshin (加藤内藏進) C451
 Kato Kuranoshin (加藤内藏進) D402
 Kato Shingo (加藤真悟) P237
 Kato Teruyuki (加藤輝之) B203
 Kato Tomomichi (加藤知道) P117
 Katou Wataru (加藤亘) B159
 Katsuyama Kenichi (勝山健一) C464
 Kawamura Seiji (川村誠治) C407
 Kawase Hiroaki (川瀬宏明) B405
 Kawase Hiroaki (川瀬宏明) P439
 Kawashima Shigetō (川島茂人) D104
 Kida Satoshi (木田智史) P311
 Kido Atushige (城戸敦善) D201
 Kim Heon-sook (金憲淑) P203
 Kinoshita Masashi (木下仁) P436
 Kitabatake Naoko (北畠尚子) P338
 Kobashi Fumiaki (小橋史明) A103
 Kobayashi Chiaki (小林ちあき) P207
 Kobayashi Fumiaki (小林文明) B152
 Kobayashi Fumiaki (小林文明) P243
 Kodama Chihiro (小玉知央) P132
 Kodama Yasu-masa (児玉安正) P328
 Kohno Nadao (高野洋雄) P333
 Koike Toshio (小池俊雄) D151
 Kondo Fumiyo (近藤文義) P406
 Kondo Hiroaki (近藤裕昭) C206
 Kondo Hiroaki (近藤裕昭) P212
 Kondo Keiichi (近藤圭一) P124
 Kondo Yumi (近藤由美) P222
 Koseki Shunya (古閑俊也) A104
 Koshiro Tsuyoshi (神代剛) A106
 Kotani Ayumi (小谷亜由美) P214
 Kuba Naomi (久芳奈遠美) B456
 Kubota Takuji (久保田拓志) P411
 Kuchiki Katsuyuki (朽木勝幸) P136
 Kudo Rei (工藤玲) P236

講演者索引

< K >

Kunii Masaru (國井勝) A202
 Kurihara Kazuo (栗原和夫) D406
 Kurita Naoyuki (栗田直幸) D158
 Kuroda Tooru (黒田徹) P127
 Kusaka Hiroyuki (日下博幸) P227
 Kusaka Hiroyuki (日下博幸) P401
 Kusunoki Kenichi (楠研一) B151
 Kusunoki Kenichi (楠研一) D403
 Kusunoki Shoji (楠昌司) A460
 Kuwano-yoshida Akira (吉田聡) B204

< M >

Machida Toshinobu (町田敏暢) P208
 Maejima Yasumitsu (前島康光) D207
 Maesaka Takeshi (前坂剛) B206
 Maki Masayuki (真木雅之) B158
 Mase Hirofumi (間瀬博文) A301
 Mashiko Wataru (益子渉) B201
 Matsueda Hidekazu (松枝秀和) P209
 Matsueda Mio (松枝未遠) A206
 Mendrok Jana C156
 Midan Toshimi (美談年民) D303
 Misumi Ryohei (三隅良平) P414
 Miura Kazuhiko (三浦和彦) P108
 Miyagawa Koji (宮川幸治) P103
 Miyakawa Tomoki (宮川知己) P426
 Miyamoto Yoshiaki (宮本佳明) P332
 Miyazaki Kazuyuki (宮崎和幸) C203
 Miyazaki Kazuyuki (宮崎和幸) D305
 Miyazaki Tadaomi (宮崎忠臣) P244
 Miyazaki Yuzo (宮崎雄三) C102
 Miyoshi Takemasa (三好建正) A207
 Miyoshi Takemasa (三好建正) P226
 Mizuno Akira (水野亮) D301
 Mizuno Hakanu (水野量) A451
 Mori Mariko (森真理子) P444
 Mori Shuichi (森修一) D452
 Moteki Qoosaku (茂木耕作) D460
 Murata Akihiko (村田昭彦) P434
 Murata Fumie (村田文絵) D160
 Murayama Shohei (村山昌平) P211
 Murazaki Kazuyo (村崎万代) P322
 Murosaki Masafumi (室崎将史) P102

< N >

Nagano Yoshinori (永野良紀) D103
 Nagashima Kana (長島佳菜) P141
 Nagoshi Toshiyuki (名越利幸) C452
 Nakaegawa Toshiyuki (仲江川敏之) P320
 Nakagawa Shinji (中川慎治) P116
 Nakai Sento (中井専人) B309

< N >

Nakajima Takashi (中島孝) C454
 Nakamae Kumi (中前久美) C101
 Nakamura Kozo (中村晃三) B458
 Nakamura Takashi (中村貴) P337
 Nakamura Yoshitaka (中村佳敬) P245
 Nakanishi Mikio (中西幹郎) C303
 Nakayoshi Makoto (仲吉信人) P217
 Nakazawa Tetsuo (中澤哲夫) A401
 Naoe Hiroaki (直江寛明) P111
 Nasuno Tomoe (那須野智江) B401
 Nemoto Yukiko (根本由紀子) P123
 Ninomiya Kozo (二宮洗三) B406
 Nishi Noriyuki (西憲敬) D461
 Nishigaki Tsuguhito (西垣語人) B464
 Nishii Kazuaki (西井和晃) D306
 Nishikawa Masanori (西川将典) P303
 Nishizawa Tomoaki (西澤智明) C158
 Niwa Yosuke (丹羽洋介) P107
 Niwano Masashi (庭野匡思) P231

< O >

Obata Atsushi (小畑淳) A461
 Ochiai Satoshi (落合啓) P134
 Oda Ryoko (小田僚子) P216
 Ogasawara Takuya (小笠原拓也) P238
 Ogohara Kazunori (小郷原一智) D205
 Ohdaira Mitsuru (大平満) P218
 Ohizumi Mitsuo (大泉三津夫) A307
 Oikawa Hiroshi (及川博史) A303
 Oikawa Hiroshi (及川博史) A304
 Oike Yasomi (大池八十美) C457
 Oishi Ryouta (大石龍太) A458
 Okamoto Hajime (岡本創) C159
 Okubo Sayuri (大久保さゆり) P115
 Okuda Tomohiro (奥田智洋) P315
 Onishi Masanori (大西将徳) C305
 Onishi Masanori (大西将徳) P234
 Ono Kousaku (小野耕作) P313
 Oshima Naga (大島長) P114
 Ota Yoshifumi (太田芳文) C152
 Otsuka Kiyotoshi (大塚清敏) C302
 Otsuka Shigenori (大塚成徳) D464
 Oue Mariko (尾上万里子) P340

< P >

Peng Xindong (彭新東) B304

< Q >

Qin Huiling P425

< R >

Rafi Uddin Md. P442

< S >

Sagawa Tomoyuki (佐川智孝) P143
 Saito Kazuo (齊藤和雄) A203
 Saito Kazuo (齊藤和雄) A204
 Saito Ryu (齊藤龍) P403
 Saitoh Naoko (齋藤尚子) C153
 Sakai Satoshi (酒井敏) C402
 Sakai Satoshi (酒井敏) C403
 Sakami Tomonori (坂見智法) P232
 Sakurai Keita (櫻井溪太) P144
 Sakurai Namiko (櫻井南海子) P342
 Sanga-ngoie Kazadi P241
 Sasaki Hidetaka (佐々木秀孝) P321
 Sasaki Yoshiaki (佐々木佳明) B407
 Satake Shinsuke (佐竹晋輔) P201
 Sato Kaori (佐藤可織) B454
 Sato Naoki (佐藤尚毅) A405
 Sato Tomonori (佐藤友徳) D102
 Sato Toshihiro (佐藤哲裕) C465
 Satoh Shinsuke (佐藤晋介) B207
 Satou Yousuke (佐藤陽祐) P314
 Sawa Yousuke (澤庸介) C204
 Sawai Tetsuji (澤井哲滋) A408
 Sawai Tetsuji (澤井哲滋) P223
 Seiki Ayako (清木亜矢子) D455
 Seki Takanori (関隆則) P306
 Sekiguchi Miho (関口美保) A465
 Sekizawa Shinya (関澤信也) P310
 Seko Hiromu (瀬古弘) P345
 Seko Hiromu (瀬古弘) P445
 Senoo Takashi (妹尾卓) A208
 Seto Tri Handoko
 Shibata Kiyotaka (柴田清孝) D304
 Shima Shin-ichiro (島伸一郎) B455
 Shimizu Atsushi (清水厚) P109
 Shimizu Kensaku (清水健作) C459
 Shimizu Shingo (清水慎吾) P128
 Shimokawa Shinya (下川信也) P334
 Shinoda Taro (篠田太郎) A464
 Shinoda Taro (篠田太郎) B301
 Shinoda Yoshihiro (篠田佳宏) P112
 Shoji Yoshinori (小司慎教) P309
 Shusse Yukari (出世ゆかり) B302
 Slam Kaysar B408
 Sugawara Hirofumi (菅原広史) P221
 Sugawara Hirofumi (菅原広史) P304
 Sugawara Yuya (菅原祐也) P145
 Sugimoto Nobuo (杉本伸夫) C157
 Sugimoto Norihiko (杉本憲彦) D307

講演者索引

< S >

Sugimoto Shiori (杉本志織) D159
 Sugimoto Soichiro (杉本聡一郎) B104
 Sugimura Takeshi (杉村剛) P125
 Sugiyama Ko-ichiro (杉山耕一朗) D206
 Suzuki Hiroto (鈴木博人) P240
 Suzuki Ippo (鈴木一步) P228
 Suzuki Kazue (鈴木香寿恵) P138
 Suzuki Kentaro (鈴木健太郎) A456
 Suzuki Kosuke (鈴木攻祐) P204
 Suzuki Osamu (鈴木修) B208
 Suzuki Tomoyuki (鈴木智幸) B105
 Suzuki Tsuneaki (鈴木恒明) A403

< T >

Tabata Dan (田畑弾) P305
 Tabata Yoshikazu (田畑悦和) P428
 Tajiri Takuya (田尻拓也) B451
 Takagi Masahiro (高木征弘) D203
 Takahashi Atsuhiko (高橋厚裕) P302
 Takahashi Kazuyuki (高橋一之) C405
 Takahashi Keiko (高橋桂子) P229
 Takahashi Keiko (高橋桂子) P339
 Takahashi Kiyotoshi (高橋清利) P419
 Takahashi Nobuhiro (高橋暢宏) B461
 Takahashi Nobuhiro (高橋暢宏) P443
 Takahashi Takuya (高橋琢也) P409
 Takahashi Tsuneya (高橋庸哉) P301
 Takahashi Yoshiyuki-o. (高橋芳幸) D204
 Takano Toshiaki (鷹野敏明) B156
 Takayabu Izuru (高藪出) P421
 Takayabu Yukari (高藪縁) D454
 Takemi Tetsuya (竹見哲也) A305
 Takemoto Masako (竹本麻紗子) P139
 Takemura Toshihiko (竹村俊彦) A463
 Taku-m. Saitoh (斎藤琢) C207
 Tamagawa Ichiro (玉川一郎) P402
 Tanahashi Shuichi (棚橋修一) C455
 Tanaka Hidetaka (田中英貴) A105
 Tanaka Hiroharu (田中博春) P122
 Tanaka Hiroshi (田中博) A407
 Tanaka Kenji (田中健路) D154
 Tanaka Minoru (田中実) P335
 Tanaka Minoru (田中実) P420
 Tanaka Taichu (田中泰宙) C105
 Taniguchi Kenji (谷口健司) D153
 Terao Yukio (寺尾有希夫) C201
 Terao Yukio (寺尾有希夫) P104
 Tomikawa Yoshihiro (富川喜弘) P233
 Tomiya Yoshiaki (遠宮善陽) P413
 Tsuboki Kazuhisa (坪木和久) B202
 Tsuboki Kazuhisa (坪木和久) B460

< T >

Tsuguchi Hiroshige (津口裕茂) B305
 Tsukamoto Osamu (塚本修) C404
 Tsukuni Masaaki (津國眞明) P120
 Tsunematsu Nobumitsu (常松展充) C406
 Tsutsui Junichi (筒井純一) P318

< U >

Uchiyama Takao (内山貴雄) P422
 Uematsu Akihisa (植松明久) C463
 Ueno Kenichi (上野健一) D152
 Ueno Mitsuru (上野充) D407
 Ujiie Masashi (氏家将志) P239
 Ushio Tomoo (牛尾知雄) B157
 Ushiyama Tomoki (牛山朋来) B153
 Ushiyama Tomoki (牛山朋来) D459
 Uyeda Hiroshi (上田博) B155

< W >

Wada Akira (和田晃) P101
 Wada Akira (和田晃) P210
 Wada Akiyoshi (和田章義) P331
 Wada Akiyoshi (和田章義) P432
 Wakimizu Kenji (脇水健次) B457
 Watanabe Akira (渡邊明) B154
 Watanabe Takashi (渡邊嵩) P437
 Watanabe Tomonori (渡邊友紀) P135
 Watarai Yasushi (渡来靖) P323

< Y >

Yagai Isamu (谷貝勇) A455
 Yagi Koji (八木晃司) P140
 Yamada Hiroyuki (山田広幸) D157
 Yamada Tetsuji (山田哲二) C304
 Yamada Yoshinori (山田芳則) B306
 Yamada Yukiko (山田由貴子) D465
 Yamamori Miho (山森美穂) P133
 Yamamoto Masaru (山本勝) A101
 Yamamoto Masaru (山本勝) B308
 Yamamoto Masayuki (山本真之) C462
 Yamamoto Munehisa (山本宗尚) P343
 Yamamoto Susumu (山本晋) C208
 Yamamoto Susumu (山本晋) P408
 Yamanaka Goro (山中吾郎) P430
 Yamanaka Manabu (山中大学) D451
 Yamanouchi Akiko (山内明子) A102
 Yamao Rieko (山尾理恵子) P415
 Yamasaki Masanori (山崎正紀) B403
 Yamashita Katsuya (山下克也) B452
 Yamashita Yousuke (山下陽介) P417
 Yamato Hiroaki (大和広明) P219

< Y >

Yamazaki Akihiro (山崎明宏) P137
 Yamazaki Nobuo (山崎信雄) A454
 Yanagino Takeshi (柳野健) A302
 Yanase Wataru (柳瀬亘) P433
 Yasuda Tamaki (安田珠幾) P324
 Yasui Motoaki (安井元昭) C301
 Yasunaga Kazuaki (安永数明) B404
 Yasunaga Kazuaki (安永数明) D457
 Yatagai Akiyo (谷田貝亜紀代) A404
 Yohgai Toshiroh (用具敏郎) B307
 Yokohata Tokuta (横畠徳太) P325
 Yokoi Satoru (横井寛) P327
 Yokoyama Chie (横山千恵) D458
 Yoneyama Kunio (米山邦夫) D456
 Yoshida Naohiro (吉田尚弘) P431
 Yoshida Yukio (吉田幸生) P412
 Yoshimura Jun (吉村純) A459
 Yoshino Jun (吉野純) A306
 Yoshino Jun (吉野純) P225
 Yoshioka Mayumi (吉岡真由美) D408
 Yoshizaki Masanori (吉崎正憲) D462
 Yukimoto Seiji (行木誠史) A462

< Z >

Zaizen Yuji (財前祐二) P110